

## 報告

## 甲斐国府の研究

## — 笛吹市春日居町池ノ尻地点、狐塚地点 —

櫛原 功 一

※ 帝京大学文化財研究所

## はじめに

- I. 国府想定地研究の現状と課題
- II. 甲斐国府に関する研究史
- III. 寺本廃寺および国府の調査
- IV. 池ノ尻地点の遺構と遺物
- V. 狐塚地点の遺構と遺物
- VI. 炭化材、炭化米と年代

## VII. まとめ

(付編) 池ノ尻地点出土炭化物の樹種同定、種実同定、放射性年代測定(パレオ・ラボAMS年代測定グループ)

## はじめに

- 1 試料と方法
- 2 結果
- 3 考察

## はじめに

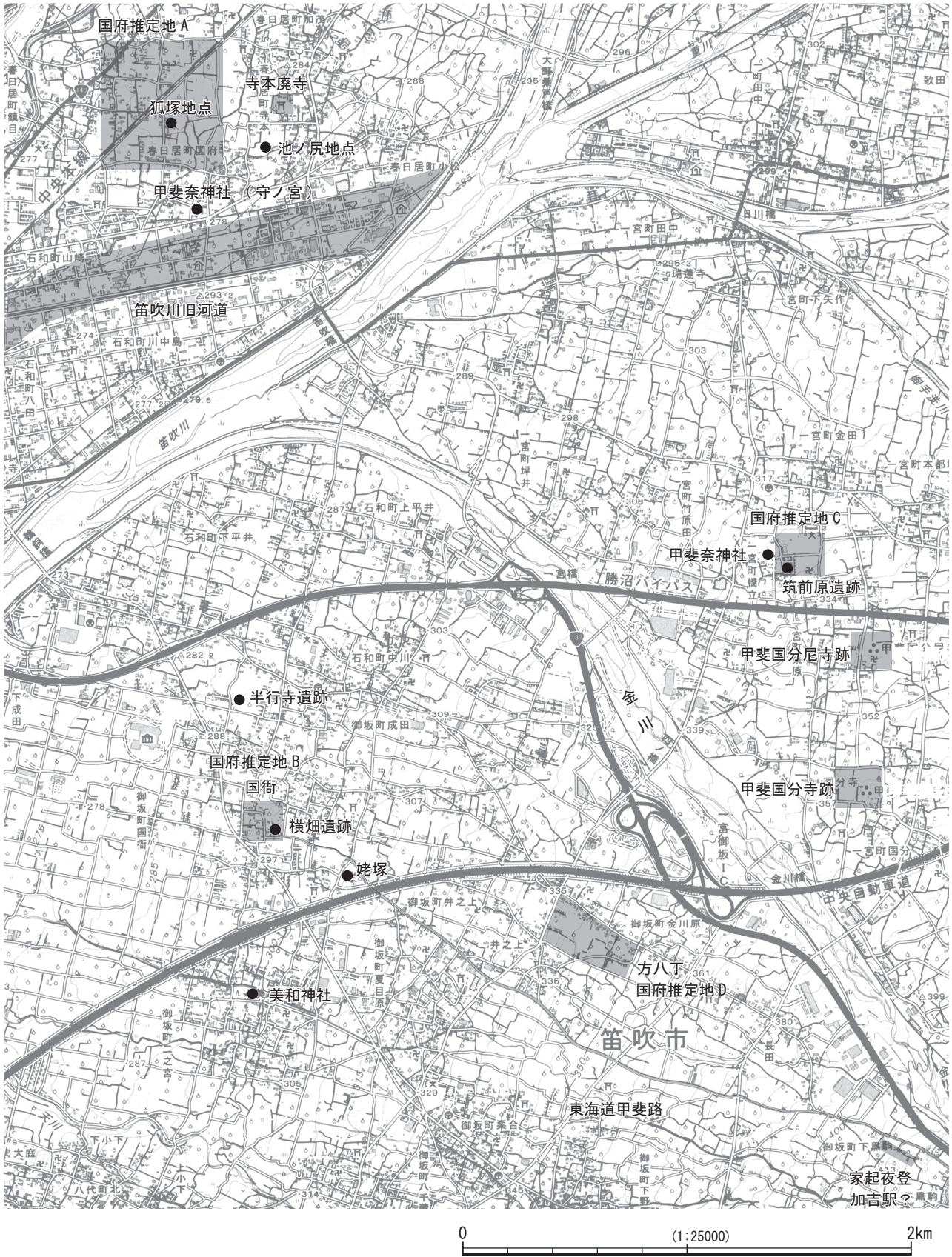
山梨県の古代史研究における大きな課題のひとつに、「甲斐国府」の所在地解明がある。山梨県内の国府関連地名には笛吹市春日居町国府(コウ)、笛吹市御坂町国衙(コクガ)、御坂町金川原方八丁、笛吹市一宮町国分(コクブ)、があり、古代甲斐国の支配機構である甲斐国府、国衙域が想定されてきた(第1図)。

今日、全国各地の国府、国衙の具体的な構造が考古学的調査によって明らかになりつつあるなか、山梨県内でも発掘調査が行われてきたが、甲斐国府については関連地名が存在するにも関わらず、国府の片鱗は見いだせずにいる。その要因のひとつに、これまでの発掘調査の成果が十分に情報公開されていない点が指摘できる。そこで、調査履歴や出土遺物を多方面から再検討することで、国府に関する手がかりが得られるのではないだろうか。そのような見通しのもと、帝京大学文化財研究所では2018年より「甲斐国府・国衙研究会」として、考古学、文献、地形学、条里研究等、各方面の研究者を交えた共同研究体制を開始した。この研究会では、甲斐国府について、国府以後の守護所を含めて変遷過程を明らかにすることを目的とする。そこで基礎的な作業として、これまでの調査成果を再精査するため、笛吹市教育委員会の協力を得て2020年より池ノ尻、狐塚地点の出土遺物の図化作業、池ノ尻地点出土炭化米の年代測定を実施した。本稿ではそれらの成果を提

示し、今後の国府研究の前提となる基礎データとしたい。

## I. 国府想定地研究の現状と課題

笛吹市春日居町国府(第1図 国府推定地A)には、周辺に県内最古の寺本廃寺や甲斐奈神社(守ノ宮)が存在し、一帯には条里地割が残り、北側の山麓一帯には後期古墳群が分布する。また東海道、東山道をつなぐ交通の要衝にあたり、かつて甲斐奈神社の南には笛吹川の河津(「近津」)も存在したことから、甲斐国府または山梨郡衙が想定されている。旧春日居町教育委員会では、国府地内の池ノ尻地点での礎石発見を機に、「国府関連遺跡発掘調査」を継続的に実施し、池ノ尻地点での礎石建物群のほか、狐塚地点で掘立柱建物群を確認するなど、考古学的調査を進めてきた(第2図)。また寺本廃寺についても継続的な試掘調査が行われ、伽藍配置が明らかになりつつある。ただし国府地名が存在するとはいえ、国府に直接関連づける遺構、遺物の発見には至っていない。また、これまでに多数の概報が刊行されているものの遺物整理が十分ではなく、各地点の実態を読み取ることが難しいことから、出土遺物の整理を通じて、遺構の年代観を明らかにしていく必要がある。さらには郡寺、氏寺、あるいは国府寺と推定される寺本廃寺については、瓦研究により時期の消長を解明し、甲斐国分寺、国分尼寺や川田、上土



第1図 甲斐国府推定地の分布

器瓦窯との検討をすることで、寺院の性格や相互の関連性を考える必要があるほか、寺本廃寺を含めた周辺地域の遺構、遺物を見直し、国府もしくは郡衙、寺院関連に関する情報を整理する必要がある、それらは今後の課題といえる。

笛吹市御坂町国衙（第1図 国府推定地B）は、これまで国府中枢部の国衙所在地として確実視され、前期国府とみる説、後期国府とみる説があるなかで、後期国府説が有力視されてきた。東海道甲斐路が地区を通過し、付近には県内最大級の石室をもつ姥塚古墳や、古墳時代および平安時代の大集落跡である二ノ宮、姥塚遺跡、美和神社（二ノ宮神社）が近く、国分寺、国分尼寺は金川対岸に位置することから国府所在地としては適地にある。ただ周辺での発掘調査が少なく、山梨県の「古代官衙・寺院跡詳細分布調査」（山梨県教育委員会 1995）により半行寺遺跡や横畑遺跡で墨書土器や石帯などが見つかったが、単発的な調査にとどまり、従来の地名や条里を手がかりとする歴史地理的な研究段階を脱却できない状況にある。これまでに具体的な国府の姿は捉えられていないが、周辺集落や古墳群の消長、国府関連の遺構、遺物の集成、国衙に至る駅路の検討を含め、何らかの糸口を得たいところであり、今後、継続的な遺跡調査の実施が望まれる。また坂本美夫氏の御坂町金川原方八丁説（第1図 国府推定地D）については、地名のみを根拠とすることから国府推定地として取り上げられることが少ないが（坂本 1987）、改めてさまざまな角度から検討する必要があるだろう。

笛吹市一宮町国分（第1図 国府推定地C）周辺には国分寺、国分尼寺、甲斐奈神社が所在する。国衙候補地とされてきた東原地内の筑前原遺跡が中世館跡と判明したことから、近年では国分地域を国府移転説から除外する傾向がある。「国分」とは国分寺をさす地名だが、国府所在地を国分地内に求める考え方も根強い。この地域では、周辺を含めて多数の発掘調査が実施されており、近年、報告書の刊行により地域全体の遺跡群の動向を捉えることが可能となった。今後、あらためて遺跡群の動向を分析するとともに、国府関連の遺構、遺物の検討を行う必要がある。

## II. 甲斐国府に関する研究史

1970年代以前の甲斐国府研究に関しては、主に地

名や寺社、条里地割をもとにした歴史地理学、および国分寺の研究のなかで、国府所在地、移転説に関する議論が行われてきた。

10世紀前半成立とされる「和名類從抄」には「国府在八代郡」と記載され、御坂町国衙をあてる考え方が一般的であるが、記載の誤謬とする見方もある。「甲斐名勝志」（天明3、1783）では八代郡国衙（御坂町国衙）を山梨郡国府（春日居町国府）よりも古いと推測した。1935年に広瀬広一氏は条里方向の分析のなかで一宮町国府説を加え、岡部村（春日居町国府）から一宮村（一宮町国分）、国衙村（御坂町国衙）への3転説を新たに提唱し（広瀬 1935）、桂川七郎氏、上野晴郎氏など同調する意見が多い（桂川 1936、須藤・谷岡 1951、上野 1967）。1943年には太田静六氏が国府から国衙への二転説（太田 1943）を提示すると、木下良氏も二転説の立場で春日居町国府地域を国府所在地として検討し、寺本廃寺については国府付属寺院（国府寺）と推定した。一方で春日居町国府を郡家の遺称地名とする大場磐雄氏の説（大場・仁科 1938）があり、寺本廃寺を郡寺もしくは氏寺と推定する。

1980年代以降、考古学的調査の進展のなか、春日居町教育委員会により寺本廃寺の調査が行われ、さらに国府を求めて試掘調査の手が広げられた。1986年には、坂本美夫氏がこれまでの甲斐国府の比定地および移転説に関する研究史をまとめ、春日居町国府を山梨郡家所在地と推定しつつ、御坂町金川原方八丁の地区を新たな候補として評価し、御坂町国衙の地は11世紀代以降の移転と想定している（坂本 1987）。1988年、野沢昌康氏は『春日居町誌』のなかで、考古学的調査や歴史地理的な見地から甲斐国府に関する研究史を整理し、春日居町国府の甲斐国府は国分寺造営完了の8世紀末頃、水害を避ける理由で一宮町東原に移転、さらに律令制の崩壊期に入る10世紀前半頃に、国府の役所機関のみが御坂町国衙へ移転したとする三転説を示した（春日居町 1988）。1996年の日本考古学協会三重大会におけるシンポジウム「国府—畿内・七道の様相—」では各国の国府研究の現状がまとめられ、甲斐については坂本氏が国府移転説や立地、周辺の古墳群や交通路との関係、出土遺物や遺構について整理した（坂本 1996）。また国府関連遺跡の調査を担当した十菱駿武氏は、春日居町国府では国庁にあたる大規模建物跡は発見されていないものの、墨書土器や緑釉陶器

等は官衙関連の遺物とみられることを指摘し、春日居古墳群の母体となる集落形成を背景に寺本廃寺、山梨郡家が成立し、8世紀中葉～8世紀末に甲斐国府が造営され、9世紀前半～10世紀前半に国分寺造営にともなう一宮町または御坂町への国府移転、10～11世紀には山梨郡の中心集落へ、という流れを想定した（春日居町教育委員会 1994）。

2000年代になると、文献の立場から従来の国府移転説に関する抜本的な見直しが行われた。坂本大輔氏は、春日居町国府の守ノ宮神社で国衙祭祀に関連した御幸祭、川除神事が行われていたことから、11世紀後半から12世紀にかけて守ノ宮神社が甲斐総社であったと推察し、国府は8世紀に御坂町国衙に置かれ、11世紀中以降に春日居町国府へ移転した、という二転説を提唱した（坂本 2006）。また新田真也氏も貞観7年（865）設置の浅間神祠の検討を通じて9世紀後半から11世紀にかけて国府は八代郡にあり、11世紀後半に山梨郡へ移転したと推測する（新田 2006）。2008年には室伏徹氏が池ノ尻地点の礎石総柱建物跡について、郡衙正倉建築が礎石化する8世紀後半～9世紀の山梨郡衙の正倉域であり、国府は御坂町国衙周辺に存在し、11世紀後半以降ま

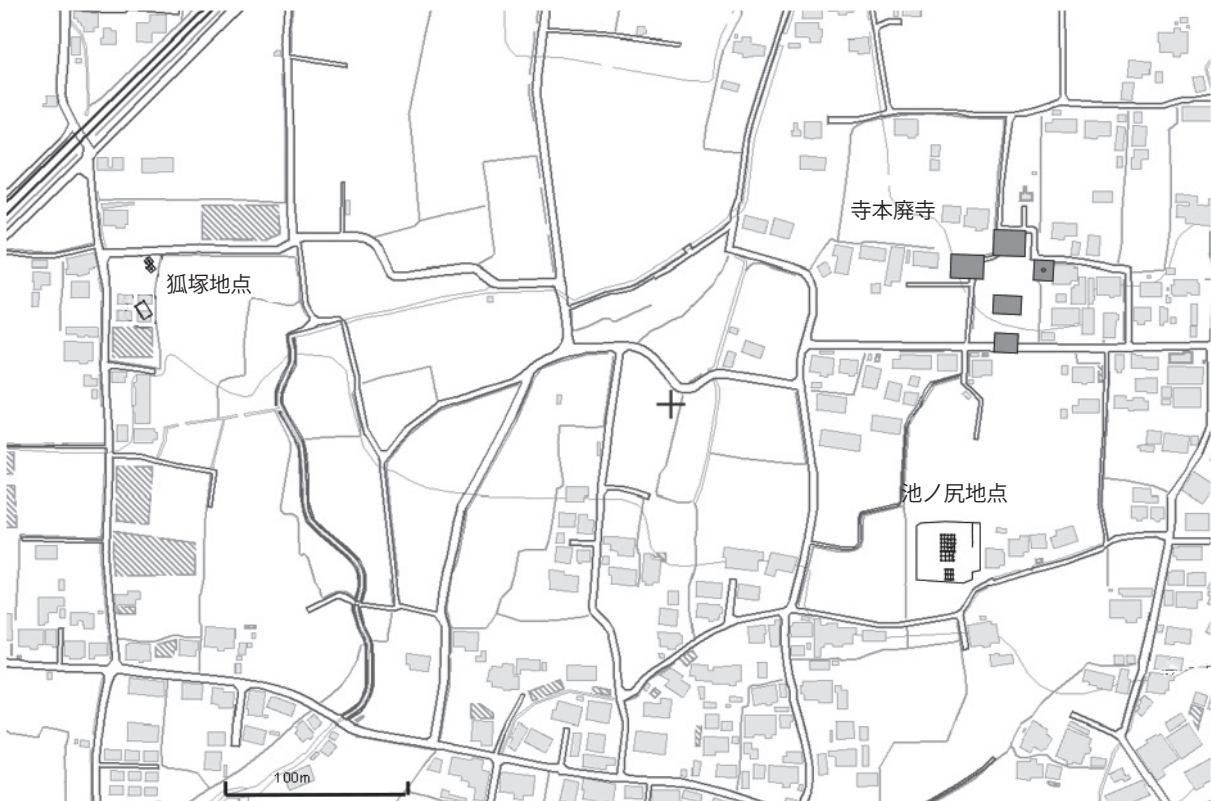
で春日居町国府に移転したと推測した（室伏 2008）。平野修氏も2013年に甲斐国府移転説に関する研究の現状をまとめるなかで、初期国府の存在を春日居町国府周辺に想定しつつ、御坂町国衙への移転時期を周辺集落の動向から8世紀代と考えたとともに、11世紀中～12世紀に春日居町国府地区へ再移転したとする新三転説を想定した（平野 2013）。

このように甲斐国府の研究は、所在地を巡る移転説に終始し、長らく前期国府説、後期国衙説が支配的であった。しかし近年では、従来の国府変遷観を逆転する前期国衙説、後期国府説という見解での一致がみられ、後期国府への移転を11世紀中ないし後半とする大幅な見直し案が提唱されるに至った。この点については必ずしも一般化された見解ではなく、今後、考古学的成果から検証する必要がある。

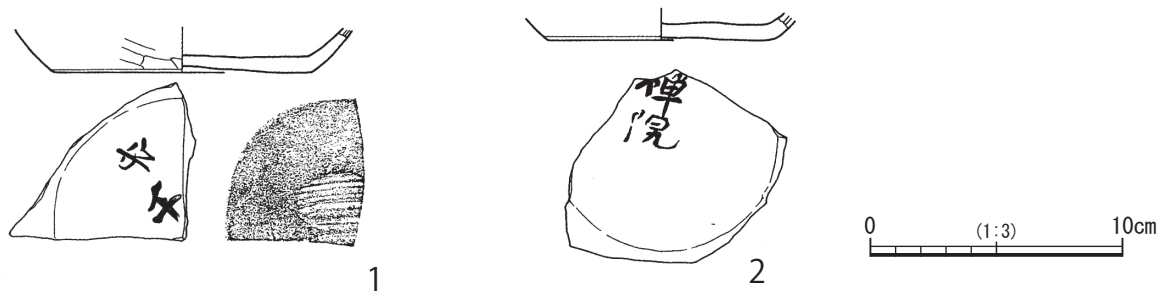
### Ⅲ．寺本廃寺および国府の調査

ここでは笛吹市春日居町内で継続的に実施されてきた寺本廃寺および国府関連遺跡調査の概要について整理しておく。

寺本廃寺の調査 寺本廃寺は江戸時代以来、長らく



第2図 寺本廃寺とその周辺（室伏 2020）



第3図 寺本廃寺出土墨書土器

国分尼寺（法華寺）と信じられてきたが、1938年に大場磐雄氏は国分尼寺説を否定し、郡寺もしくは氏寺と推定した。1948年には中嶋正行氏が川田瓦窯跡を発見し、寺本廃寺を初期国分寺と想定した。1950年には石田茂作氏が瓦の文様、塔心礎の形式から白鳳期の氏寺として位置づけた。また1967年には木下良氏が国分寺以前の国府寺と考えた。

1981年1～2月、奈良国立文化財研究所の指導のもと、寺域の確認を目的に第1次調査が実施され、塔心礎や金堂付近を中心とした試掘調査が行われた。1983年2～3月には中門、南門の確認を目的とする第2次調査が行われた。また1986年10月～1987年3月の第3次調査では、講堂、僧坊、回廊推定地で37本のトレンチを設定して試掘調査が行われ、報告書が刊行されている（春日居町教育委員会1988）。

その後、寺域内での分譲地計画を機に、中門基壇から参道にかけての再検証を目的として2007年度に4箇所、2008年度には市道拡幅に伴い6箇所の試掘調査が行われた。平成21年の県史跡指定に伴い、笛吹市では寺域の公有地化のため、伽藍配置や規模を確定することを目的として、2009年度には山王神社境内地での金堂想定地内とその周辺で13箇所の試掘調査が、2010年度には東門、講堂東回廊、金堂、中門の想定地を中心に17箇所の試掘調査が行われた（笛吹市教育委員会 2012）。

第1～3次調査では瓦類、螺髪、塑像片が出土し、法起寺式伽藍で、金堂、講堂、塔の間が詰まった配置が推定され、氏寺としての性格が有力視されている。金堂と塔の間にあたるトレンチ内からは古墳時代後期堅穴3軒が、また講堂から僧坊に相当する地点では10世紀前半の堅穴が2棟確認され、堅穴を中心に古墳時代後期～11世紀代の土師器、須恵器が出土し、寺院建立以前、廃絶後の集落の様子がうかがえるとともに、8世紀後半代の土師器や面取りした

脚をもつ大形高坏があり、寺院関連遺物が存在が注目される。また墨書文字には9世紀代の「毛」、9世紀後半の「山万呂」、10世紀前半代の「丹」「冊」「春」「浄カ」、時期不明の「金」「地」等がある。

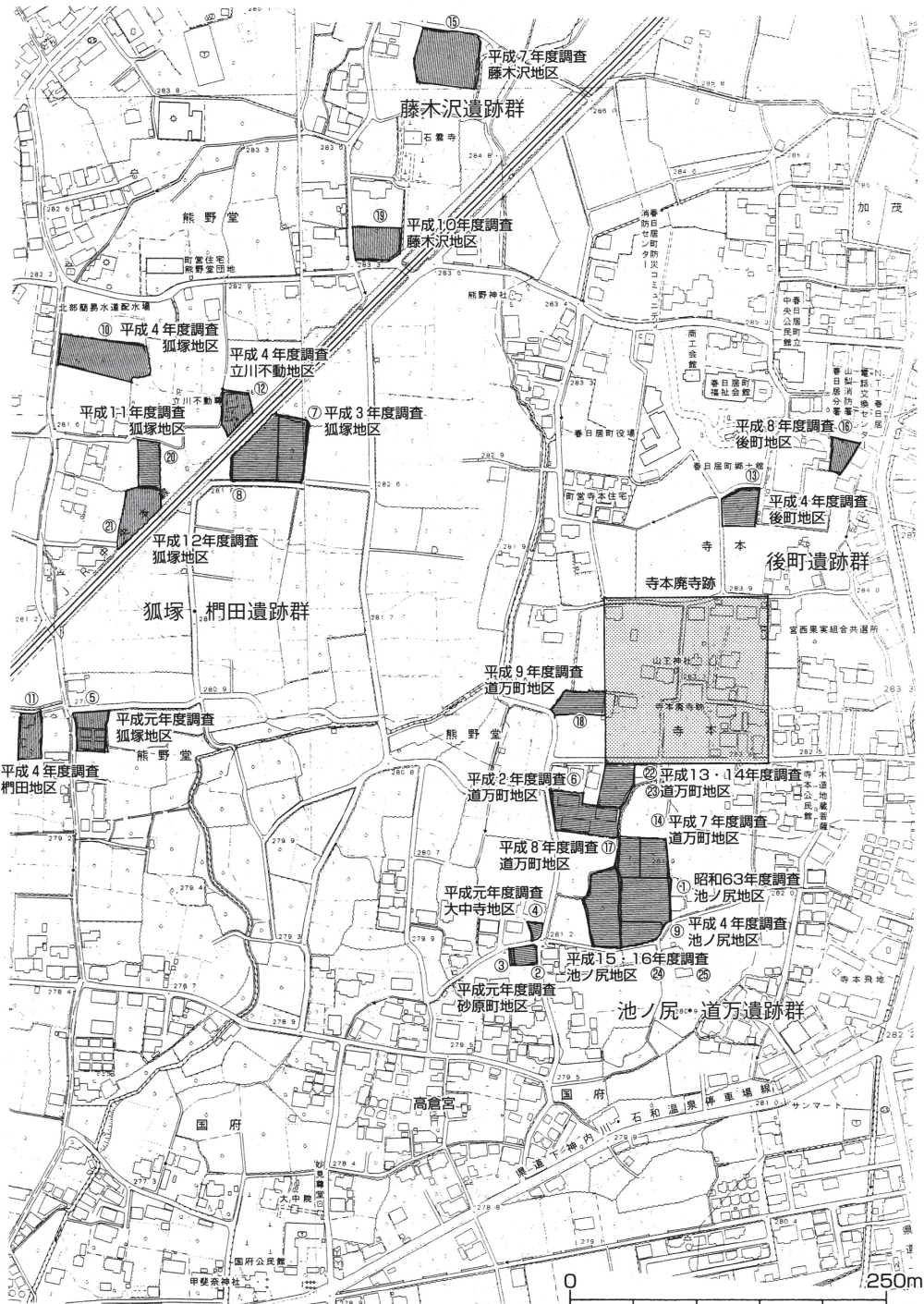
2007年度以降の調査では、従来の伽藍配置を見直した結果、講堂は従来よりも大幅に後退し、金堂が西寄りに想定されるなどの変更点が指摘されたほか、北辺の北築地想定地で柱穴列が見ついている。出土遺物には瓦のほか、古墳時代後期および8世紀前半～後半の土師器、須恵器、10～11世紀代の土師器があり、8世紀後半の土師器坏に書かれた墨書文字「守」「千」（同一底面に記載）、「禅院」、11世紀代の皿に書かれた「了」が出土した。「禅院」は寺院の存在を明確に示す資料であり、「守」は国司長官を意味するのであれば国司の存在を示唆する資料として注目される（第3図、笛吹市教育委員会2012）。墨書文字「守」は甲斐国分尼寺周辺遺跡でも出土し、寺院と国府との関係を示す事例であれば、寺本廃寺にも国司が国分寺同様に参与していたことを示す資料となる。

**国府関連遺跡調査** 1954年12月、寺本廃寺に近い春日居町国府小字池の尻（池ノ尻地点）で窪田弘四郎氏が梨の若木を植えた際、南北に並んだ礎石6個が初めて発見された。1956年にはさらに1個の礎石を加え計7個の礎石となったが、それらのうち6個の石が取り上げられ、野沢昌康氏の知るところとなった。<sup>4)</sup>

1980年、野沢氏を中心とする春日居町文化財審議員らにより、池ノ尻地点一帯でボーリング棒による地中探査が行われ、新たに十数個の礎石の存在が確認された。1987年には、寺本廃寺の第3次調査の際に地中レーダー探査および試掘調査が行われ、15箇所のテストピットから礎石7箇所、石敷きの基壇状遺構が見つかり、その後、継続的な国府関連遺跡調査が開始される。

昭和63年度の調査(春日居町教育委員会 1989・1994、第4図①) 1988年11月～平成元年3月、国府遺跡発掘調査団(団長 十菱駿武)により国府遺跡第1次調査が池ノ尻地点で実施され、総柱礎石建物跡2棟、基壇状遺構、石列が検出され、礎石建物跡周辺から炭化米を含む炭化層が発見された(第6図)。1号建物跡は4間×4間の礎石列に2間×3

間分が1列分重なるように配置された南北に長い建物で、礎石33箇所(2箇所重複)のうち17個の礎石が現存した。また2号建物跡は1号建物跡の南側4mを隔てて南に並ぶ建物跡で、4間×5間以上の礎石配置を示す。小振りの円礫を根石とし、30箇所(2箇所重複)の礎石のうち、3個の礎石が現存した。出土した遺物には7世紀後半から10世紀中頃までの土師器、須



第4図 調査地点の位置(春日居町教育委員会 2004に加筆)

恵器、灰釉陶器、瓦などがあり、建物の時期は概ね奈良時代から平安時代前期と推定されている。なお建物東側に存在する基壇状遺構については、実態不明である。

平成元年度の調査(春日居町教育委員会 1990・1994、第4図②～⑤) 1990年3月には、第2次調査として寺本廃寺の西、450mに位置する狐塚地点で調査が行われ、掘立柱建物跡2棟、古墳時代後期2軒、奈良時代4軒を含む堅穴住居跡7軒、溝3本、ピットなどが検出された(第9図)。1号建物跡は3間×4間以上の規模をもつ総柱式とみられる正倉的な掘立柱建物跡で、建物の主軸方向はN-39°-Wと、北から大きく傾いている。柱穴は方形の掘り方をもつものがあり、柱穴間は1.5～2m、深さ0.8～1mである。2号建物跡は4間×3間以上の建物跡で、主軸方向はN-29°-Wと1号建物跡同様に北から傾く。柱穴は直径0.6～1mの円形、深さ0.1～0.6mで、隅の柱穴は深く、それ以外は浅い。また写真によれば柱痕状の痕跡がある。報告によれば、柱穴からは遺物が出土しなかったことから時期は不明とされるが、表層条里の方向と大きく異なり、古墳時代の堅穴と向きが合うことから掘立柱建物跡は古墳時代と推測されている。また1号溝周辺からは古墳後期～末の土師器等が出土した。そのほか寺本道万町、大中寺地区の広い範囲で地中レーダー探査が行われ、大規模な溝状地形が推定されている。

平成2年度の調査(春日居町教育委員会 1991・1994、第4図⑥) 1991年2月～3月には、寺本道万町地区で第3次調査が実施された。これは第2次調査の地中レーダー探査で溝状地形の反応が確認された地点を試掘したもので、古墳時代後期(6世紀後半～7世紀前半)の堅穴1軒、古墳後期の溝1本、集石1箇所が確認された。また後町、神東町地区では、以前に焼土や瓦の完形品が出土し、寺本廃寺の瓦窯の可能性があるという向かいの地点で地中レーダー探査を行い、堅穴、窯跡状遺構の反応が確認されたことから、古墳時代から平安時代にかけての集落域、生産域の存在が推定されている。

平成3年度の調査(春日居町教育委員会 1992・1994、第4図⑦⑧) 1992年1月～3月には寺本廃寺の北西、熊野堂の向かいの狐塚地区で調査が行われた。狐塚138地点は9世紀から11世紀後半までの堅穴10数軒分が存在し、掘立柱建物跡とみられる柱穴が確認され、「山」、「井」、「木(奉カ)」の墨書文字が出

土したほか、緑釉陶器皿が出土している。また大中寺、狐塚、立川不動尊周辺で地中レーダー探査が実施され、溝等が想定されている。

平成4年度の調査(春日居町教育委員会 1993、第4図⑨～⑬) 1992年12月に池ノ尻地区および狐塚地区、1993年1月に柵田地区、1月～2月に狐塚地区、1月～3月に後町地区で調査が行われた。池ノ尻175地点は礎石建物跡が検出された南隣接地点で、5箇所根石とみられる配石が確認されている。報告によれば第1次調査の2号建物跡の一辺とすると、東西7.5m、南北13mで、1号建物跡と同規模になるという。狐塚155地点では、平安時代後期の堅穴住居跡2軒が確認されている。柵田311地点は第2次調査地点の西側にあたり、コーナー竈とみられる石組竈が検出され、緑釉陶器碗が出土している。狐塚135-1地点は立川不動堂境内で、平安時代の堅穴建物跡1軒、東西方向の溝1本が検出された。後町159-1地点は寺本廃寺北側にあたり、古墳時代後期の堅穴1軒、平安時代の堅穴2軒が検出され、古墳時代の1号堅穴では瑪瑙製勾玉が出土し、平安時代の2・3号堅穴では石と平瓦を用いた竈が見つかった。

平成7年度の調査(春日居町教育委員会 1996、第4図⑭⑮) 1996年1月～3月に道万町地区、3月に藤木沢地区で調査が行われた。道万町地区は池ノ尻地点の北側隣接地で、石積遺構1、石列1、時期不明の堅穴1軒が検出されている。石積遺構は長さ5.5m、幅1mの帯状で、古墳時代の土師器が出土した。また石列は東西6m、幅1.5mの南側の面を揃えた石列で、石列間から古墳時代末の土師器や瓦が出土し、7世紀後半以降の築地か基壇状に固めた南側を外装した石列で、郡家や館の建物関連の一部ではないかと推測されている。また藤木沢地区では奈良時代後期～平安時代前期の堅穴1軒が検出され、須恵器の比率が高いことが指摘されたほか、火舎脚とみられる土師器獣脚2点が出土した。

平成8年度の調査(春日居町教育委員会 1997、第4図⑯⑰) 1996年11月～平成9年1月に春日居町郷土館に隣接する後町175-1地点で、平成8年12月～平成9年1月には第1次調査地点の北側の道万町41-2地点で調査が行われた。後町175-1地点で6箇所のトレンチから奈良時代の堅穴1軒、平安時代の堅穴2軒が検出され、3号トレンチの2号堅穴では「生」と記された刻書土器が出土した。また道万町

41-2地点では7箇所の特レンチ調査により、7、8号特レンチ内で東西方向の石敷基壇（基壇状遺構）が検出された。

平成9年度の調査（春日居町教育委員会 1998、第4図⑱） 1998年3月、寺本廃寺の推定西門の西側隣接地の道万町57-1・58地点で5箇所の特レンチ調査が行われ、2号特レンチからは堅穴1軒、3号特レンチから石敷基壇状遺構が検出され、瓦や単弁八弁蓮花文軒丸瓦などが出土した。

平成10年度の調査（春日居町教育委員会 1999、第4図⑲） 1999年3月、藤木沢321-1地点で調査が行われ、平安時代の堅穴3軒が検出された。2・3号堅穴はコーナー竈をもち、1号堅穴では水晶が出土したことから、報告では水晶加工の工房の可能性があり、工人集落ではないかと推測されている。

平成11年度の調査（春日居町教育委員会 2000、第4図⑳） 2000年1月～3月に狐塚151地点で調査が行われ、平安時代の堅穴2軒が検出された。1号堅穴はコーナー竈をもつ堅穴で、竈周辺から緑釉陶器が出土している。

平成12年度の調査（春日居町教育委員会 2001、第4図㉑） 2001年3月、立川不動尊の南にあたる狐塚149-1地点で調査が行われ、平安時代の堅穴3軒、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などが見つかった。

平成13年度の調査（春日居町教育委員会 2002、第4図㉒） 2001年11月～12月、寺本廃寺西側の道万町49地点で5箇所の特レンチ調査が行われ、1・2・4号特レンチでは東西方向に石敷基壇の外装かと推測される石列が見つかった。これは寺本廃寺南築地跡に平行した軸線をもち、石敷間からは瓦片、土師器が出土した。また3号特レンチでは堅穴1軒、集石2箇所が見つかり、これも石敷基壇と推定されている。

平成14年度の調査（春日居町教育委員会 2003、第4図㉓） 2003年2月～3月、寺本廃寺西側に位置する道万町49地点で2本の特レンチ調査が行われ、1特レンチでは東西16.5mの直線的な石列が検出された。この石列は寺本廃寺南築地ラインに平行した軸線をもち、石敷基壇の外装と想定されている。また2特レンチでは堅穴1軒が確認された。出土遺物には、古墳時代から平安時代の土師器、灰釉陶器、須恵器、単弁蓮花文軒丸瓦がある。

平成15年度の調査（春日居町教育委員会 2004、第

4図㉔） 2003年11月～12月、池ノ尻地区の第1次調査西側の畑地で5箇所の特レンチ調査が行われ、1・3特レンチでは基壇状遺構、2特レンチでは根石と思われる集石、4特レンチでは炭化材、炭化米、5特レンチでは礎石建物跡1棟、石列が確認され、土師器、須恵器、瓦などが出土した。5特レンチの礎石は0.6×0.9mの平坦な礎で、上面に直径30cmの円形の柱座痕が確認されている。

平成16年度の調査（笛吹市教育委員会 2005、第4図㉕） 2005年1月～3月、前年度と同じ地点で、特レンチを拡張して設定した2箇所の特レンチ調査が実施された。1特レンチでは集石遺構が検出され、古墳時代後期の高坏、甕等が出土するとともに、炭化材や炭化米が面的に出土し、基壇状遺構の外装石材ではないかと推測されている。2特レンチでは、前年度の礎石とみられる大形礎2個のほか、根石とみられる礎群7箇所が出土し、東西2間、南北4間以上の南北向きの礎石建物跡と推定され、土師器、須恵器、瓦片が出土した。

以上の調査地点を『国府関連遺跡発掘調査報告書』（春日居町教育委員会 1994）に準拠して遺跡名で整理すると、池ノ尻・道万町地点は国府遺跡、後町地点、藤木沢地点および狐塚地点北側は神東町遺跡、熊野南遺跡、狐塚地点南側は櫛田遺跡となるが、ここでは調査区を各地点名で区別する。また遺跡群としては池ノ尻・道万町遺跡群（寺本廃寺西から南側の池ノ尻地点）、狐塚・櫛田遺跡群（寺本廃寺の西側）、後町遺跡群（寺本廃寺北側）、藤木沢遺跡群（寺本廃寺の北西）に大別が可能かと思われる（第4図）。

池ノ尻・道万町遺跡群では、1988・1989・1992・2003・2005年の調査で、南北方向に2列並んだ総柱式礎石建物跡を発見し、周囲から炭化材、炭化米が出土し、古墳時代末以降の土師器類を伴うほか、瓦片が少量出土すること、東西、南北方向の石列の存在を確認した。郡衙正倉域であれば周囲を大溝で囲む例が知られるが、区画溝は地中レーダーでは推定されたものの未検出であり、また官衙遺構に伴う特殊遺物は報告されていない。

狐塚・櫛田遺跡群では、1990・1992・1993・2000年の調査の結果、古墳時代末の堅穴および総柱式掘立柱建物跡、平安時代の9世紀～11世紀代の堅穴からなる集落跡が確認され、とくに2棟の掘立柱建物跡は初期評価段階の正倉と庁舎ではないかと推定されている（室伏 2020）。平安時代の出土遺物には



緑釉、灰釉陶器が存在し、墨書土器には「山」「井」「木」がある。

後町遺跡群では、1991・1993・1996年の調査で、古墳時代後期の竪穴、平安時代の竪穴からなる集落跡が確認され、古墳時代後期の竪穴からは瑪瑙製勾玉が出土し、平安時代の竪穴からは竈の構築材に瓦が再利用されていて、寺本廃寺の廃絶後に集落域が拡大した様子がうかがえる。文字資料には「生」と記された刻書土器がある。周辺には瓦窯の存在が想定されるとのことであるが、詳細は不明。

藤木沢遺跡群では、1996・1999年の調査の結果、奈良～平安時代の竪穴から仏具の可能性のある獣脚、平安末の竪穴で水晶が出土したことから工房の可能性が指摘されている。

このように国府関連遺跡の調査で検出された官衙関連遺構としては、池ノ尻・道万遺跡群のなかの池ノ尻地点の礎石建物跡、狐塚・櫛田遺跡群のなかの狐塚地点の掘立柱建物跡がある。また一般集落としての竪穴は、主に古墳後期～末、奈良後期～平安前期、平安末の3時期に存在し、狐塚・櫛田、後町、池ノ尻・道万町遺跡群には古墳後期集落、藤木沢遺跡群では奈良～平安時代の集落、狐塚・櫛田、後町、池ノ尻・道万町遺跡群には平安末の集落が分布している。なお、平安末（11世紀代）では転用瓦が竈に用いられていることから、寺本廃寺はその時点ですでに廃寺化していたとみられる。

#### IV. 池ノ尻地点の遺構と遺物

池ノ尻地点（第4図①⑨）では南北2棟の礎石建物跡が検出された（第5～7図）。1989年刊行の概報によれば、北側の1号建物は北側4間×4間分の礎石と、南側2間×3間分の礎石が連続した7.16×13.87mの礎石建物である。北側は放射状に根石を設置した上に礎石を据え、南側は根石が小振りで方向性がなく、礎石も小振りなことから、梁行4間、桁行4間の建物の南側に梁行3間、桁行2間の出入りのための蔵前を併設した一連の形式として捉え、堅固な北側の4間×4間分を総柱の高床式米倉と推定している（春日居町教育委員会 1989）。また南側の2号建物は、1号建物の南4mに位置し、東西（梁行）4間、南北（桁行）5間以上で7.76×6.7mの礎石建物で、身舎梁行2間に東西に1間分の広庇をもつ切妻造の南北向きの床張りとして推定して

いる。主軸方向はともに7°東偏し、ほぼ南北方向の向きとなっている。

この見解に対し、室伏徹氏は1号建物を4間×4間、3間×3間の礎石建物の重複、2号建物については3回分の重複と推測し、1号建物、2号建物は西辺がそろっていることから、池ノ尻地点の西側に正倉群の中心的な建物が存在すると推測した（第7図）。また建築単位によれば、建築の時期は「8世紀後半から9世紀であり、一般的に郡衙正倉建築が礎石化する時期と一致」することから、山梨郡衙の正倉院の一部と理解した（室伏 2008）。

出土遺物（第8図）は1号建物、2号建物、石列のほか、調査区内の位置で「北東角」「東側中央」「東側南」「南東部」「南西部」「中央部南」「北西部中央」「北西部北西角」と区別し、遺物の取り上げが行われているが、調査区全体図にそれらの範囲を示すことはむずかしい。また試掘時点でA～Gトレンチが存在するが、具体的な出土位置がわからなくなっている。したがって、ここでは調査時点での区別に従って報告する<sup>2)</sup>。

1号建物の遺物（1～32） 1号建物の遺物には土師器（1～14）、須恵器（15～24）、灰釉陶器（25・26）、瓦（27～32）がある。土師器には古墳時代後期（7C前）の坏（1、3）、高坏（7～9）、甕（12～14）、8世紀前半とみられる坏（2）、11世紀代の皿（4～6）、古墳時代後期とみられる小形壺（10）、土師器を利用した土製円板（11）がある。須恵器には蓋（15）、高台坏（16）、甕または壺（17～24）があり、15・16は8世紀前半、21は古墳時代後期とみられる。24・25は11世紀代の灰釉陶器碗、皿。瓦の27・28は格子叩きをもつ桶巻き作りの平瓦、29・30は縄叩きをもつ1枚作りの平瓦で、前者は7世紀末～8世紀前半、後者は8世紀後半である。31・32は丸瓦。

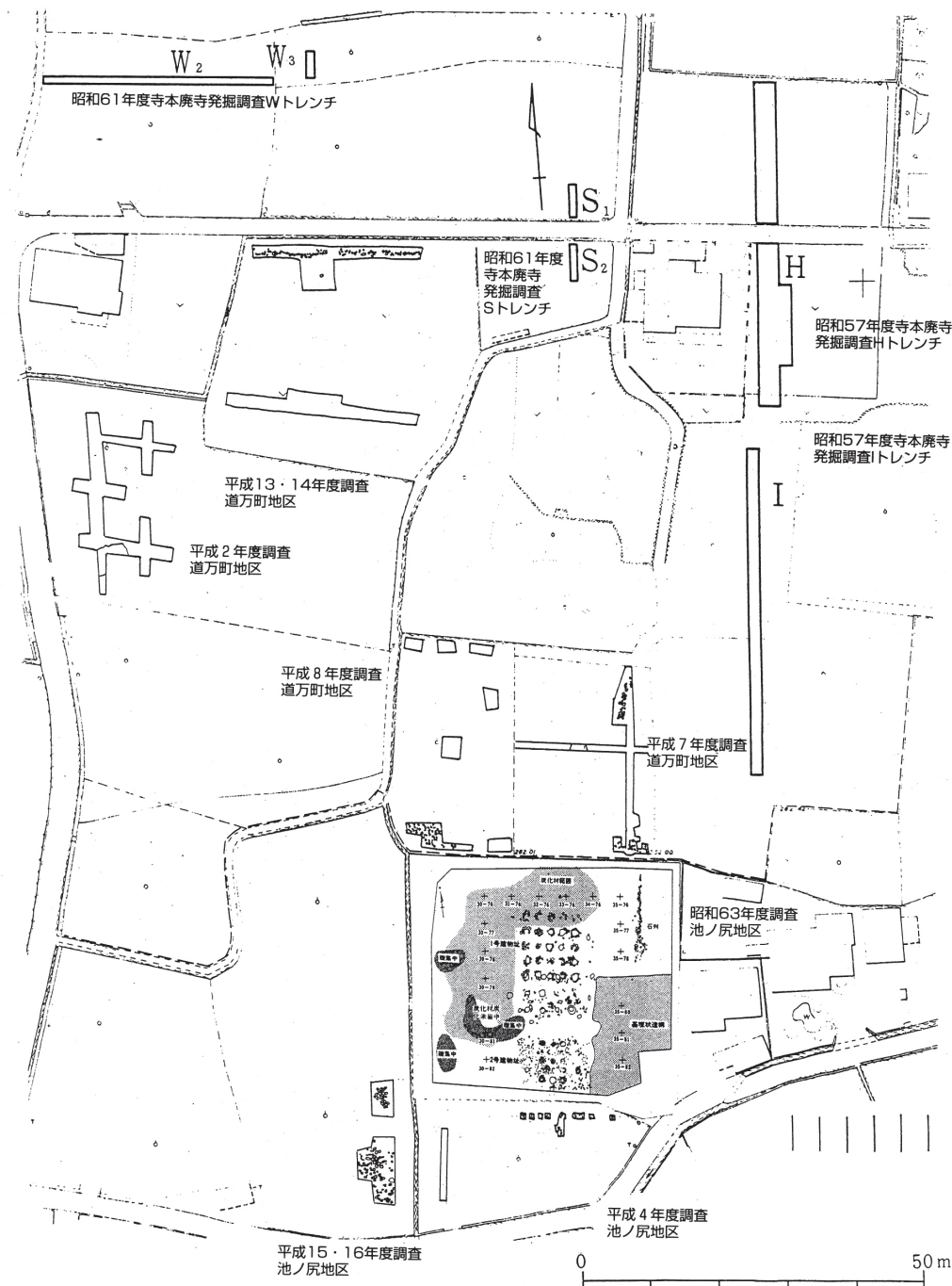
2号建物の遺物（33～44） 土師器（33～37）、須恵器（38・39）、瓦（40～44）がある。土師器はいずれも古墳時代後期（7C前）で、坏（33）、高坏（34～36）、壺底部（37）がある。38は古墳時代後期の坏で、底部に焼成前線刻「十」が記されている。39は甕。40・41は平瓦、42～44は丸瓦で44には格子叩きが残りに、いずれも7世紀末～8世紀前半とみられる。

石列の遺物 土師器（45～48）、須恵器（49）、灰釉陶器（50）、瓦（51・52）がある。45は高坏、46・

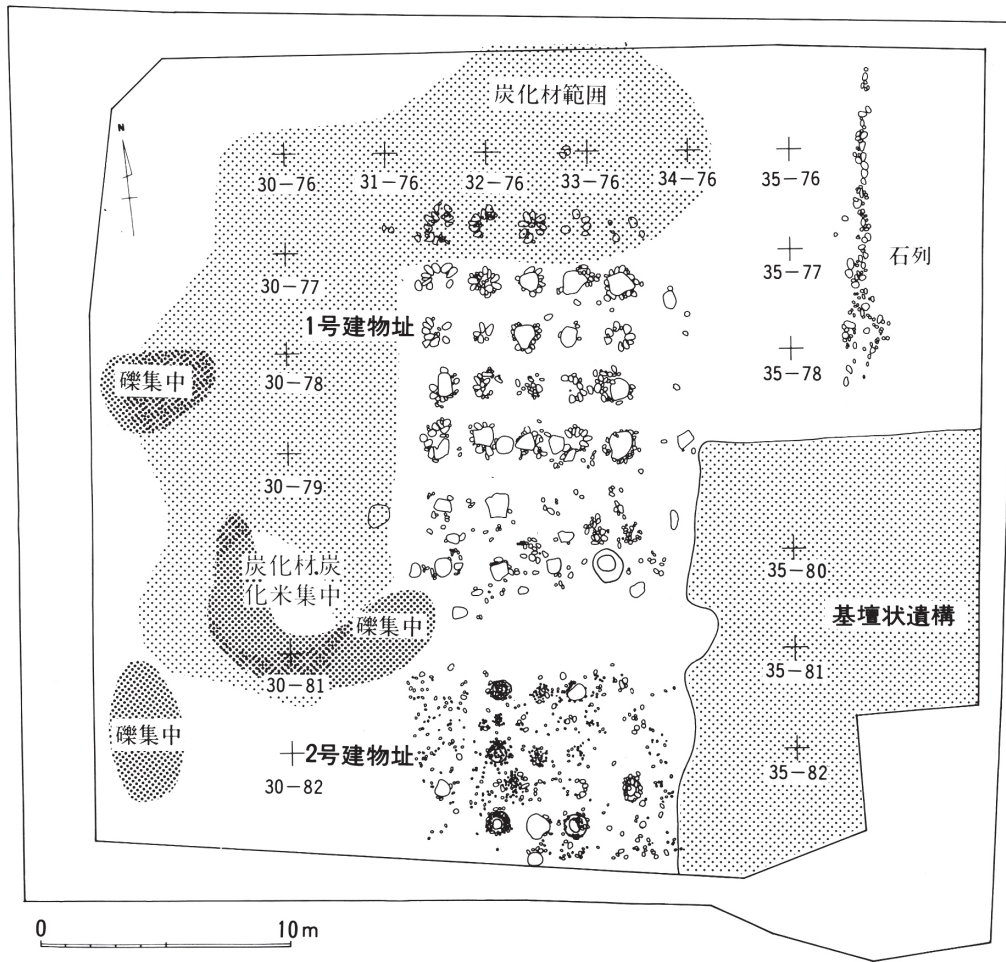
47は鉢、48は甕または壺、49は甕で、いずれも古墳時代後期とみられる。50は長頸壺底部。51・52は平瓦で、51は縄叩きをもつ1枚作り、52は桶巻き作りとみられる。

その他の遺物 ここでは地点分けして取り上げられた遺物を、まとめて遺構外出土遺物とする。出土遺物には土師器(53~55、61~65、73~82、88、90・91、94・95、101、105~109、120・121、134~136、139~145、149、151~155、160・161、165)、

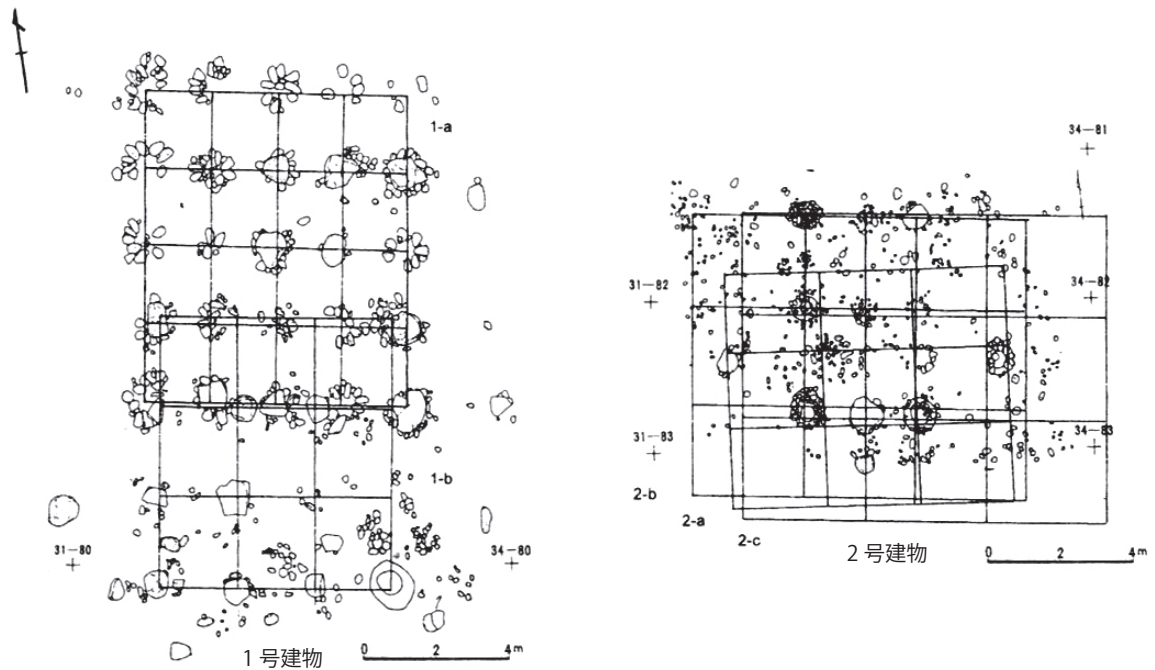
須恵器(56~58、66・67、84、89、92、96・97、110~114、117・118、122~125、137・138、156~158、162)、灰釉陶器(68~71、85・86、126・127、146・147、163~165)、瓦(60、72、99・100、102~104、116、129~133、150、159)、青磁(115、128)、焙烙(87)、土錘(98)、棒状の不明土製品(119)、鉄製品刀子(93)がある。古墳時代後期の土師器には埴(53~55)、坏(61、73、88、108、149、151、160)、高坏(75~77、90、139、144、154・155)、甕(63、



第5図 池ノ尻地点の周辺 (笛吹市教育委員会 2005)



第6図 池ノ尻地点全体図 (春日居町教育委員会 1989)



第7図 室伏氏による池ノ尻地点の柱間想定 (室伏 2008)

78～82、109、134、135、166)、壺(64・65、136、140、141、145)、小形壺(91)があり、須恵器には短い返りをもつ坏(56・57、84)、長い返りをもつ坏(66)、返りのない坏(92)、蓋(67、111・112、162)、壺(113、123・124、137、157)、壺(58、97)、甕(158)があり、短い返りの坏は6世紀末、長い返りの坏は6世紀前半とみられる。7世紀末～8世紀前半の須恵器には高台坏(83、110、156)、蓋(122)があり、同時期の土師器には坏(108)がある。また平安時代の土師器には皿(74)、坏(106)がある。灰釉陶器には碗(68・69、85、126、146、147、163)、壺(70・71、86、127、164・165)があり、碗は10世紀後半～11世紀代を主とする。瓦は平

瓦(99、102～104、116、129～131、150)、丸瓦(59・60、72、100、132・133、159)があり、格子(斜格子)叩きを残すもの(59、72、130、132)、縄叩きを残すもの(150)がある。また116の平瓦下端面には縄状圧痕があり、乾燥時に藁座のような敷物を用いた痕跡とみられ、同じものが寺本廃寺でも報告されている。その他、152・153は11世紀代の土師質土器、87は近世以降の焙烙、115、128の白磁は13世紀以降の碗である。

なお、164～166は1987年の試掘での出土資料である。また参考のため平成元年度調査の砂原地区、大中寺地区の出土資料、採集資料を掲載しておく(第11～8図)。

第1表 池ノ尻地点観察表

| 図   | 遺跡名 | 遺構名  | 番号 | 器種       | 注記           | 日付     | 備考   |
|-----|-----|------|----|----------|--------------|--------|------|
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 1  | 土師器 坏    | 1建 北4層       | 881205 | 内外黒  |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 2  | 土師器 坏    | 1建 北4層       | 881203 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 3  | 土師器 坏    | 1建 北4層       | 881205 | 内外黒  |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 4  | 土師器 坏    | 1建 北4層       | 881203 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 5  | 土師器 坏    | 1建 中央4層      | 881201 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 6  | 土師器 坏    | 1建 2層        | 881122 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 7  | 土師器 高坏   | 1建 北3層       | 881130 | 内外赤  |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 8  | 土師器 高坏   | 1建 東側4層      | 881206 | 内外赤  |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 9  | 土師器 高坏   | 1建 南4層       | 890203 | 外黒   |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 10 | 土師器 手捏ね壺 | 1建内 西側4層     | 881214 | 内一部赤 |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 11 | 土製品 土製円盤 | 1建 北4層       | 881205 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 12 | 土師器 甕    | 1建 東側4層      | 881206 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 13 | 土師器 甕    | 1建跡 南3層      | 881130 | 外一部赤 |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 14 | 土師器 甕    | 1建 北3層       | 881129 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 15 | 須恵器 蓋    | 1建 北4層       | 881205 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 16 | 須恵器 高台坏  | 1建 北3層       | 881215 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 17 | 須恵器 甕    | 1建 西4層       | 881216 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 18 | 須恵器 甕    | 1建 中央4層      | 881202 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 19 | 須恵器 甕    | 1建跡 南3層      | 881130 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 20 | 須恵器 甕    | 1建 No.7      | 890227 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 21 | 須恵器 甕    | 1建 北4層       | 881205 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 22 | 須恵器 甕    | 1建 中央ベルト4層   | 890215 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 23 | 須恵器 甕    | 1建 南東角4層     | 881201 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 24 | 須恵器 壺    | 1建 南3層(1建跡南) | 881128 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 25 | 灰釉陶器 碗   | 1建 3層        | 881128 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 26 | 灰釉陶器 皿   | 1建 3層        | 881128 |      |
| 8-1 | 池ノ尻 | 1号建物 | 27 | 平瓦       | 1建 西南3層      | 881208 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 1号建物 | 28 | 平瓦       | 1建 北4層       | 881215 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 1号建物 | 29 | 平瓦       | 1建 中央南4層     | 890203 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 1号建物 | 30 | 平瓦       | 1建 中央4層      | 881201 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 1号建物 | 31 | 丸瓦       | 1建 北4層       | 890228 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 1号建物 | 32 | 丸瓦       | 1建 南東角3層     | 881130 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 33 | 土師器 坏    | 2建 表探        | 881125 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 34 | 土師器 高坏   | 2建 No.3      | 890227 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 35 | 土師器 高坏   | 2建 No.4      | 890227 | 内外赤  |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 36 | 土師器 高坏   | 2建 No.5      | 890227 | 内外黒  |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 37 | 土師器 壺    | 2建 No.7      | 890222 |      |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 38 | 須恵器 坏    | 2建 南4層       | 890202 | 線刻   |
| 8-2 | 池ノ尻 | 2号建物 | 39 | 須恵器 甕    | 2建内 4層       | 890214 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 2号建物 | 40 | 平瓦       | 2建 表探        | 881126 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 2号建物 | 41 | 平瓦       | 2建 瓦No.1     | 890227 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 2号建物 | 42 | 丸瓦       | 2建 盛土内       | 890208 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 2号建物 | 43 | 丸瓦       | 2建 南4層       | 890207 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 2号建物 | 44 | 丸瓦       | 2建 表探        | 881124 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 石列   | 45 | 土師器 高坏   | 北東部石列西4層     | 890228 | 内外赤  |
| 8-3 | 池ノ尻 | 石列   | 46 | 土師器 鉢    | 北東石列西4層      | 890228 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 石列   | 47 | 土師器 鉢    | 南北石列4層       | 881215 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 石列   | 48 | 土師器 壺    | 北東石列西4層      | 890228 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 石列   | 49 | 須恵器 甕    | 南北石列4層       | 881214 |      |
| 8-3 | 池ノ尻 | 石列   | 50 | 灰釉陶器 壺   | 石列南側4層       | 890119 |      |

| 図   | 遺跡名 | 遺構名    | 番号  | 器種       | 注記          | 日付     | 備考     |
|-----|-----|--------|-----|----------|-------------|--------|--------|
| 8-4 | 池ノ尻 | 石列     | 51  | 平瓦       | 石列南側4層      | 890119 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 石列     | 52  | 平瓦       | 石列南側4層      | 890119 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 53  | 土師器 鉢    | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 54  | 土師器 鉢    | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 55  | 土師器 鉢    | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 56  | 須恵器 坏    | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 57  | 須恵器 坏    | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 58  | 須恵器 高台坏  | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 59  | 丸瓦       | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 北東     | 60  | 丸瓦       | 北東角4層       | 881203 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 61  | 土師器 坏    | 東側中央4層      | 890119 | 内黒     |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 62  | 土師器 高坏   | 東側中央4層      | 890113 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 63  | 土師器 甕    | 東側中央4層      | 890121 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 64  | 土師器 壺    | 東側中央4層      | 890121 | 内赤     |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 65  | 土師器 甕    | 東側中央4層      | 890121 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 66  | 須恵器 坏    | 東側中央4層      | 890121 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 67  | 須恵器 蓋    | 東側中央4層      | 890121 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 68  | 灰釉陶器 埴   | 東側中央4層      | 890121 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 69  | 灰釉陶器 埴   | 東側中央4層      | 890125 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 70  | 灰釉陶器 壺   | 東側中央4層      | 890121 |        |
| 8-4 | 池ノ尻 | 東側中央   | 71  | 灰釉陶器 長頸壺 | 東側中央4層      | 890114 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側中央   | 72  | 丸瓦       | 東側中央4層      | 890113 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 73  | 土師器 坏    | 東側南No.8     | —      | 内外黒    |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 74  | 土師器 皿    | 東側南         | 890126 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 75  | 土師器 高坏   | 東側南No.11    | —      | 内外赤    |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 76  | 土師器 高坏   | 東側南No.1     | —      | 内外赤    |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 77  | 土師器 高坏   | 東側南No.2     | —      |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 78  | 土師器 鉢    | 東側南No.13    | —      |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 79  | 土師器 甕    | 東側南No.4     | —      |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 80  | 土師器 鉢    | 東側南No.11    | —      |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 81  | 土師器 甕    | 東側南No.6     | —      | 76と同一か |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 82  | 土師器 甕    | 東側南No.6     | —      | 75と同一か |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 83  | 須恵器 坏    | 東側南4層       | 890126 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 84  | 須恵器 坏    | 東側南         | 890126 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 85  | 灰釉陶器 埴   | 東側南4層       | 890126 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 86  | 灰釉陶器 壺   | 東側南4層       | 890126 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側南    | 87  | 土器 焙烙    | 東側南4層       | 890126 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側土山中  | 88  | 土師器 坏    | 東側土山中       | 881223 |        |
| 8-5 | 池ノ尻 | 東側土山中  | 89  | 須恵器 甕    | 東側土山中       | 881223 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南東部    | 90  | 土師器 高坏   | 南東内4層       | 890214 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南東部    | 91  | 土師器 鉢    | 南東溝内4層      | 890215 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南東部    | 92  | 須恵器 坏    | 南東溝内4層      | 890210 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南東部    | 93  | 金属製品 刀子  | 南東部石敷遺構内4層  | 890228 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 94  | 土師器 器台?  | 南西角4層       | 881227 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 95  | 土師器 壺    | 南西部石敷内4層    | 890131 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 96  | 須恵器 高台坏  | 南西側南部石組み内4層 | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 97  | 須恵器 壺    | 南西側南部石組み内4層 | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 98  | 土製品 土錘   | 南西部南側       | —      |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 99  | 平瓦       | 南西部4層       | 890228 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 南西部    | 100 | 丸瓦       | 南西側南部石組み内4層 | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 西南部    | 101 | 土師器 鉢    | 西側南部4層      | 890128 | 内外黒    |
| 8-6 | 池ノ尻 | 西南部    | 102 | 平瓦       | 西南部4層       | 881224 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 西南部    | 103 | 平瓦       | 西南部4層       | 881224 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 西南部    | 104 | 平瓦       | 西南部4層       | 881224 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 105 | 土師器 坏    | 中央部南側4層     | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 106 | 土師器 坏    | 中央部南側4層     | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 107 | 土師器 蓋    | 中央部南側4層     | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 108 | 土師器 坏    | 中央部南側4層     | 890114 | 内黒     |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 109 | 土師器 甕    | 中央部南側4層     | 890114 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 110 | 須恵器 高台坏  | 中央部南側4層     | 890114 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 111 | 須恵器 蓋    | 中央部南側4層     | 890206 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 112 | 須恵器 蓋    | 中央部南側4層     | 890203 |        |
| 8-6 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 113 | 須恵器 壺    | 中央部南側4層     | 890206 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 114 | 須恵器 甕    | 中央部南側4層     | 890121 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 115 | 白磁 碗     | 中央部南側4層     | 890121 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 中央部南側  | 116 | 平瓦       | 中央部南側4層     | 890114 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部中央  | 117 | 須恵器 坏    | 北西部中央4層     | 890227 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部中央  | 118 | 須恵器 甕    | 北西部中央4層     | 890227 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部中央  | 119 | 土製品 不明   | 北西部中央4層     | 890227 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 120 | 土師器 鉢    | 北西角4層       | 881213 | 内外赤    |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 121 | 土師器 鉢    | 北西部4層       | 881217 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 122 | 須恵器 蓋    | 北西部4層       | 881219 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 123 | 須恵器 壺    | 北西部4層       | 881220 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 124 | 須恵器 甕    | 北西部4層       | 890110 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 125 | 須恵器 甕    | 北西部4層       | 890111 |        |
| 8-7 | 池ノ尻 | 北西部北西角 | 126 | 灰釉陶器 埴   | 北西部4層       | 890111 |        |

| 図   | 遺跡名  | 遺構名    | 番号  | 器種      | 注記               | 日付     | 備考  |
|-----|------|--------|-----|---------|------------------|--------|-----|
| 8-7 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 127 | 灰釉陶器 壺  | 北西部4層            | 890111 |     |
| 8-7 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 128 | 白磁 碗    | 北西部4層            | 881214 |     |
| 8-7 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 129 | 平瓦      | 北西部4層            | 881219 |     |
| 8-7 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 130 | 平瓦      | 北西部4層            | 881213 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 131 | 平瓦      | 北西部4層            | 881220 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 132 | 丸瓦      | 北西部4層            | 881220 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | 北西部北西角 | 133 | 丸瓦      | 北西部4層            | 881219 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Aトレンチ  | 134 | 土師器 甕   | Aトレ 北側3層         | 881118 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Aトレンチ  | 135 | 土師器 甕   | Aトレ 北側3層         | 881118 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Aトレンチ  | 136 | 土師器 壺   | Aトレンチ No.1       | 881117 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Aトレンチ  | 137 | 須恵器 長頸壺 | Aトレ 北側3・4層       | 881117 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Aトレンチ  | 138 | 須恵器 甕   | Aトレ 北側3・4層       | 881117 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Bトレンチ  | 139 | 土師器 高坏  | Bトレ 3・4層         | 881118 | 外黒  |
| 8-8 | 池ノ尻  | Bトレンチ  | 140 | 土師器 甕   | Bトレ 3・4層         | 881118 | 内外赤 |
| 8-8 | 池ノ尻  | Bトレンチ  | 141 | 土師器 甕   | Bトレ 東拡張3層        | 881119 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Bトレンチ  | 142 | 土師器 甕   | Bトレ 3・4層         | 881118 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Bトレンチ  | 143 | 土師器 甕   | Bトレ 3・4層         | 881118 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Cトレンチ  | 144 | 土師器 高坏  | Cトレ 3層           | 881119 | 内外黒 |
| 8-8 | 池ノ尻  | Cトレンチ  | 145 | 土師器 壺   | Cトレ 3・4層         | 881118 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Cトレンチ  | 146 | 灰釉陶器 壺  | Cトレ 3・4層         | 881118 |     |
| 8-8 | 池ノ尻  | Cトレンチ  | 147 | 灰釉陶器 壺  | Cトレ 3層           | 881117 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Dトレンチ  | 148 | 灰釉陶器 壺  | Dトレ 3層           | 881118 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Eトレンチ  | 149 | 土師器 坏   | Eトレ 3層           | 881118 | 内黒  |
| 8-9 | 池ノ尻  | Fトレンチ  | 150 | 平瓦      | Fトレ 2・3層         | 881118 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 151 | 土師器 坏   | Gトレ 西側砂礫層        | 881221 | 外赤  |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 152 | 土師器 坏   | Gトレ 東側3層         | 881121 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 153 | 土師器 高台坏 | Gトレ 東側3層         | 881121 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 154 | 土師器 高坏  | Gトレ 北側3層         | 881221 | 内外赤 |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 155 | 土師器 高坏  | Gトレ 西側砂礫層        | 881221 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 156 | 須恵器 高台坏 | Gトレ 北側3層         | 881221 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 157 | 須恵器 壺   | Gトレ 西側砂礫層        | 881221 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 158 | 須恵器 甕   | Gトレ 西側砂礫層        | 881221 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Gトレンチ  | 159 | 丸瓦      | Gトレ 西側砂礫層        | 881221 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | Hトレンチ  | 160 | 土師器 坏   | Hトレ 南角3層         | 881221 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  | 東壁     | 161 | 灰釉陶器 鉢  | 東カベセクション         | 890202 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  |        | 162 | 須恵器 蓋   | 表採               | 890228 |     |
| 8-9 | 池ノ尻  |        | 163 | 灰釉陶器 壺  | 表採               | 881126 |     |
| 8-9 | よしん塚 |        | 164 | 灰釉陶器 壺  | よしん塚 TP1(テストピット) | 870124 |     |
| 8-9 | よしん塚 |        | 165 | 灰釉陶器 壺  | よしん塚 TP7         | 870122 |     |
| 8-9 | よしん塚 |        | 166 | 土師器 甕?  | よしん塚 TP5         | 870129 |     |

## V. 狐塚地点の遺構と遺物

トレンチを主とした部分的な調査が行われた結果、北側に1号建物、南側に2号建物が配置し、周囲に堅穴が8軒確認され、それらの建物、堅穴のいくつかの向きが西に大きく傾く点に特徴がある（第4図⑤、第9・10図、春日居町教育委員会 1990）。

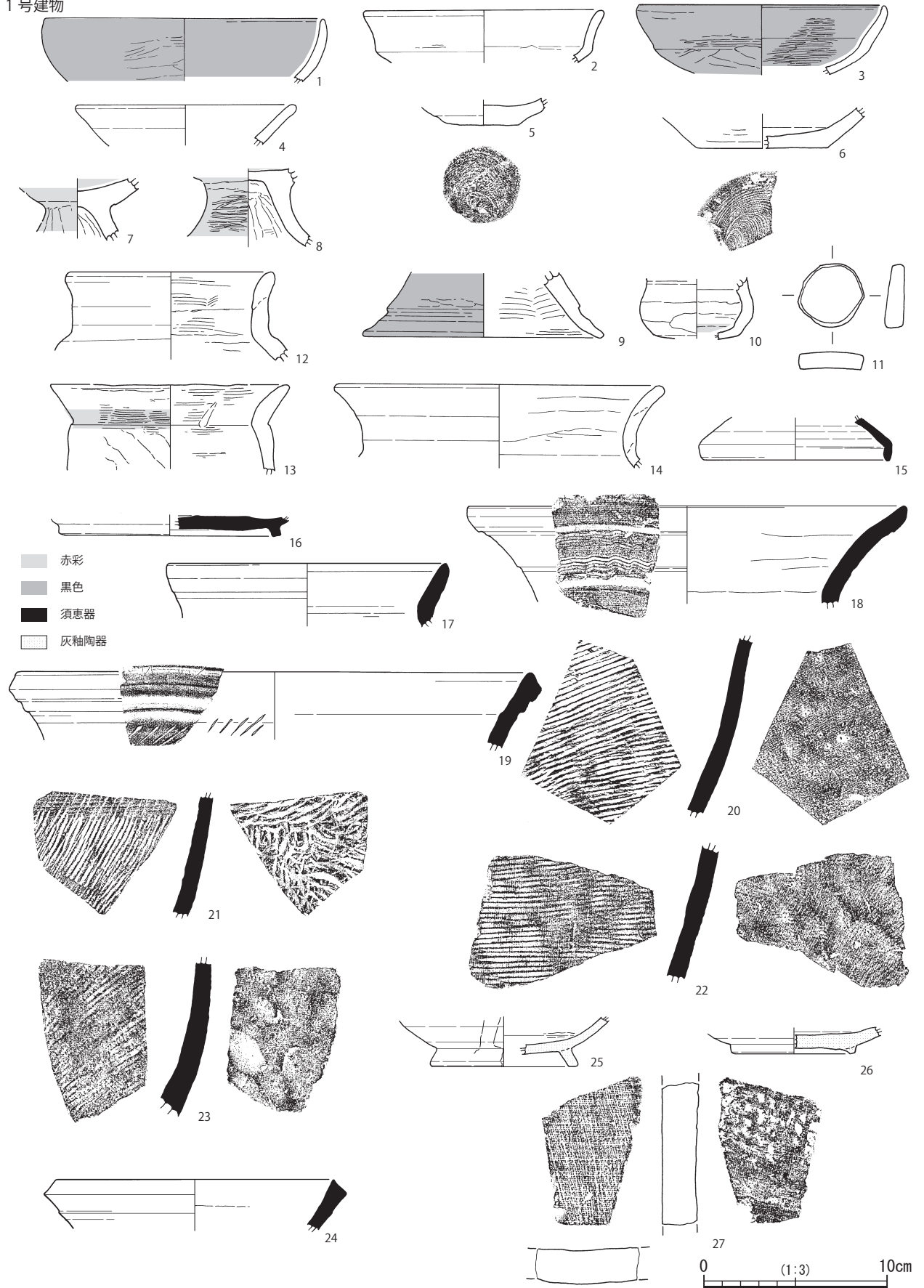
1号建物は、7本程度の柱穴からなり、柱穴の掘り方は隅丸方形を呈し、深さは0.5～0.8cmで、柱穴列の向きは39°西偏している。この建物に関し、室伏氏は2間×2間以上と、2間×3間以上の2棟以上が重複した総柱建物の正倉建築と推測する。また2号建物は11本以上の柱穴からなり、柱穴の掘り方は直径0.6～1mの円形で、深さは0.1mのもの、0.4～0.6mのものがあり、建物の主軸方向は28°西偏する。室伏氏は3間×5間の庁舎的建物と推測し、時期については建築単位をもとに7世紀第3四半期～8世紀初頭と推測し、狐塚地区の遺構群は山梨評段階の評遺構の一部の可能性が極めて高いとしている（第10図、室伏 2008）<sup>4)</sup>。

堅穴は1号建物周辺に1～6号堅穴、2号堅穴周辺に2・7・8号堅穴が存在する。1～6号堅穴は重複し、堅穴の主軸方向はおおむね北向きとなる。それに対し2・7・8号堅穴は2号建物を囲むように単独で分布し、主軸方向は2号建物と同じく、北から大きく西に振れており、時期的な類似性を示唆している。また1号溝は2号建物の西から南にかけて巡る溝で、7号堅穴を切る。ほかにいくつかのピットが分布するほか、1号溝周辺では土器集中区より多数の土器が出土している。

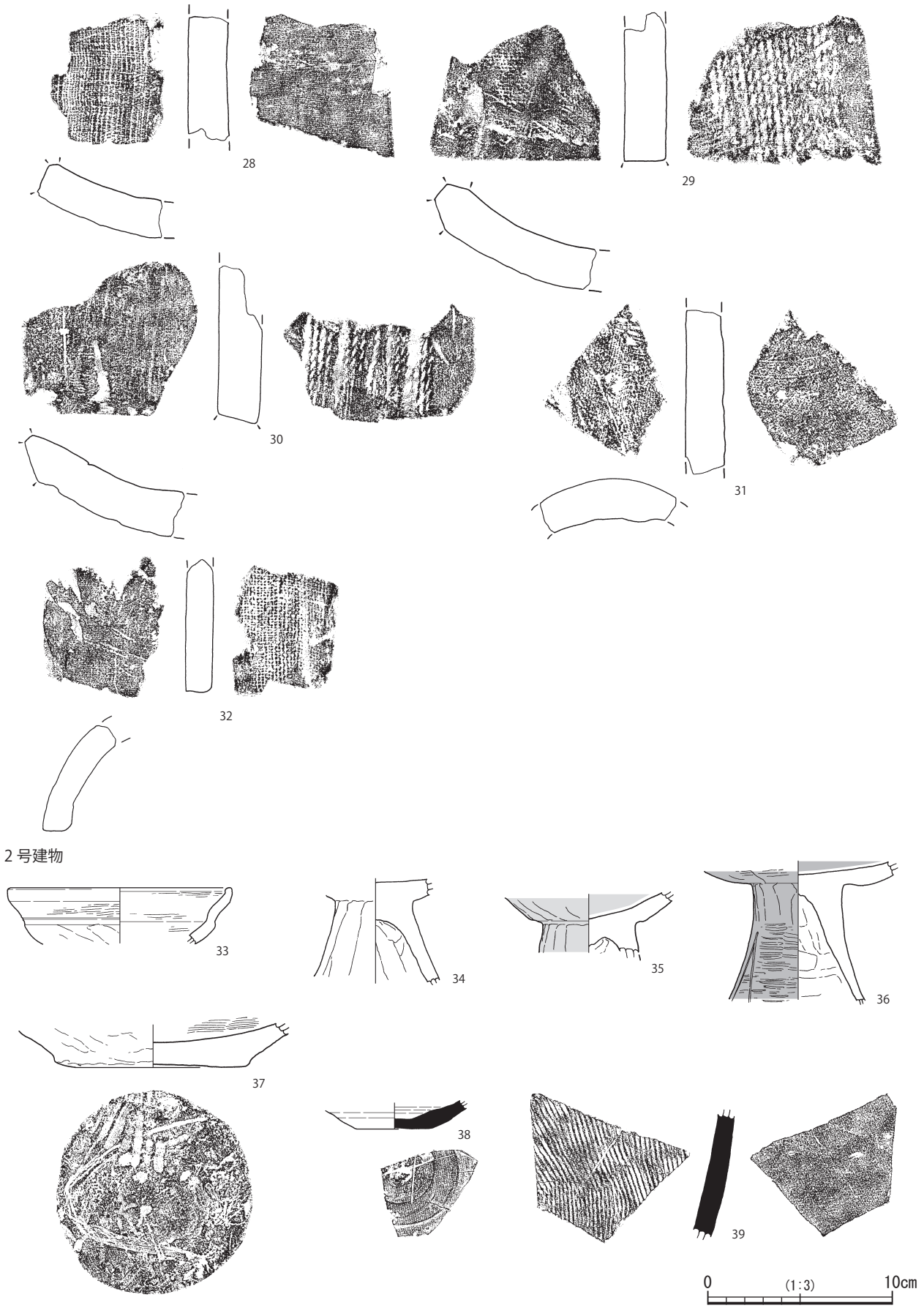
遺構別に遺物を報告する（第11図）。

1号建物 1・2は古墳時代後期の土師器甕。  
 2号建物 土師器（1～9）、須恵器（10・11）があり、土師器には坏（3）、高坏（4・5）、甕（6～9）、須恵器には坏（10）、小形堤瓶（11）が存在し、いずれも古墳時代後期～末（7C前～後）である。11の堤瓶は中央に円形貼付をする特徴をもつ。  
 2号堅穴 土師器（12～26）、須恵器（27～29）があり、26のS字甕は4世紀代の混入品であるが、ほかは古墳後期（7C前）である。12～14は坏で、12は須恵

1号建物

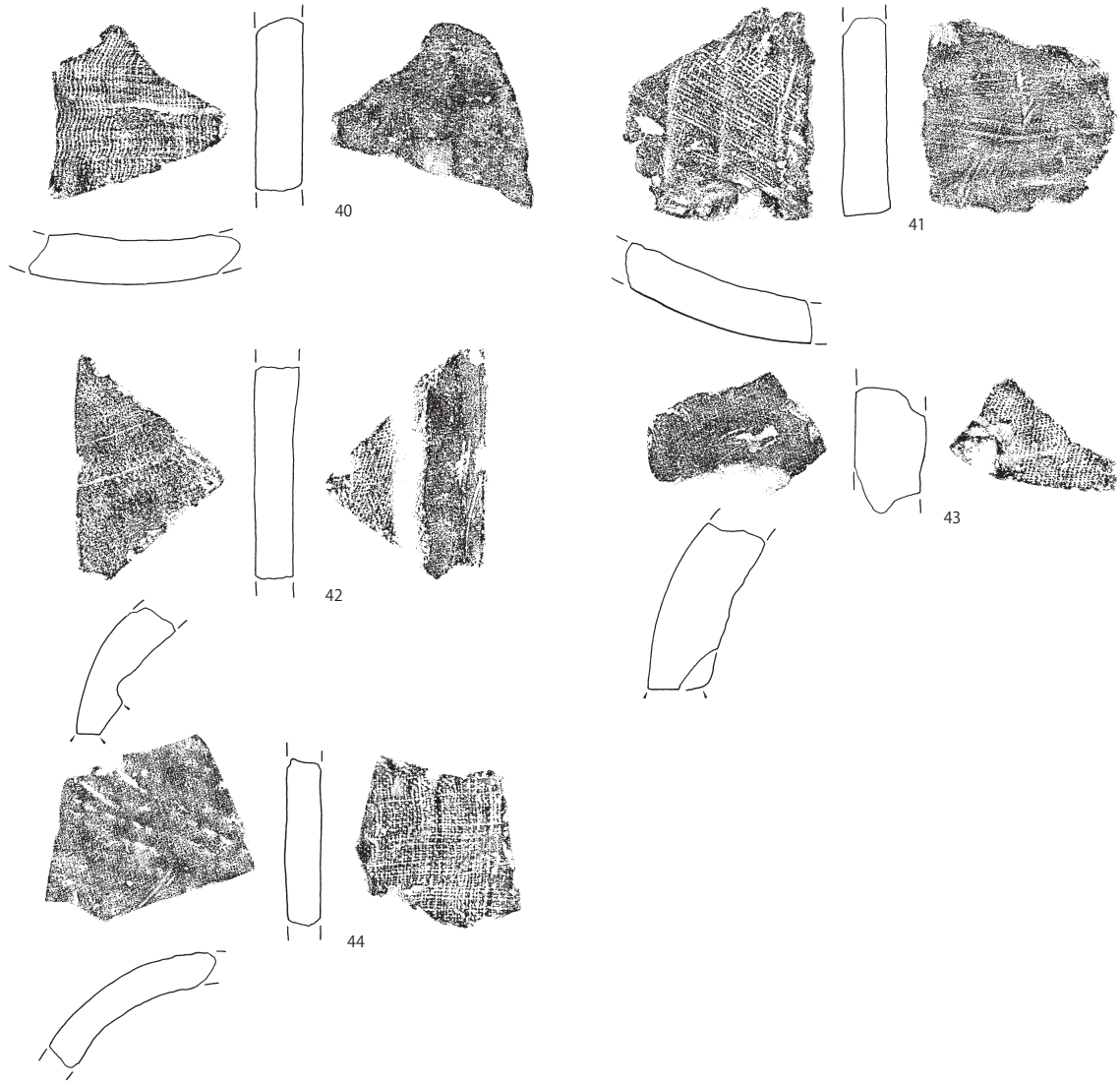


第8-1図 池ノ尻地点の遺物

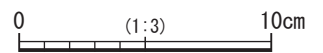
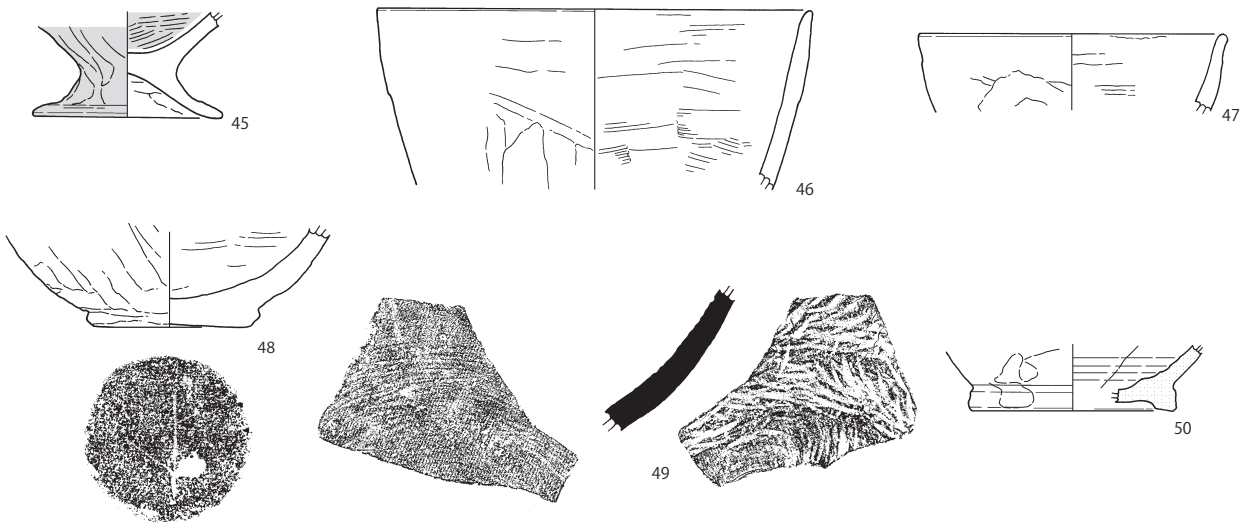


第8-2図 池ノ尻地点の遺物

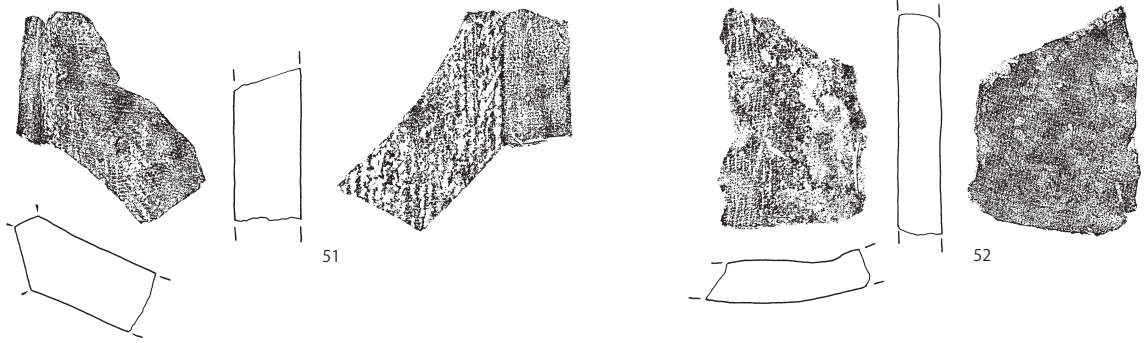




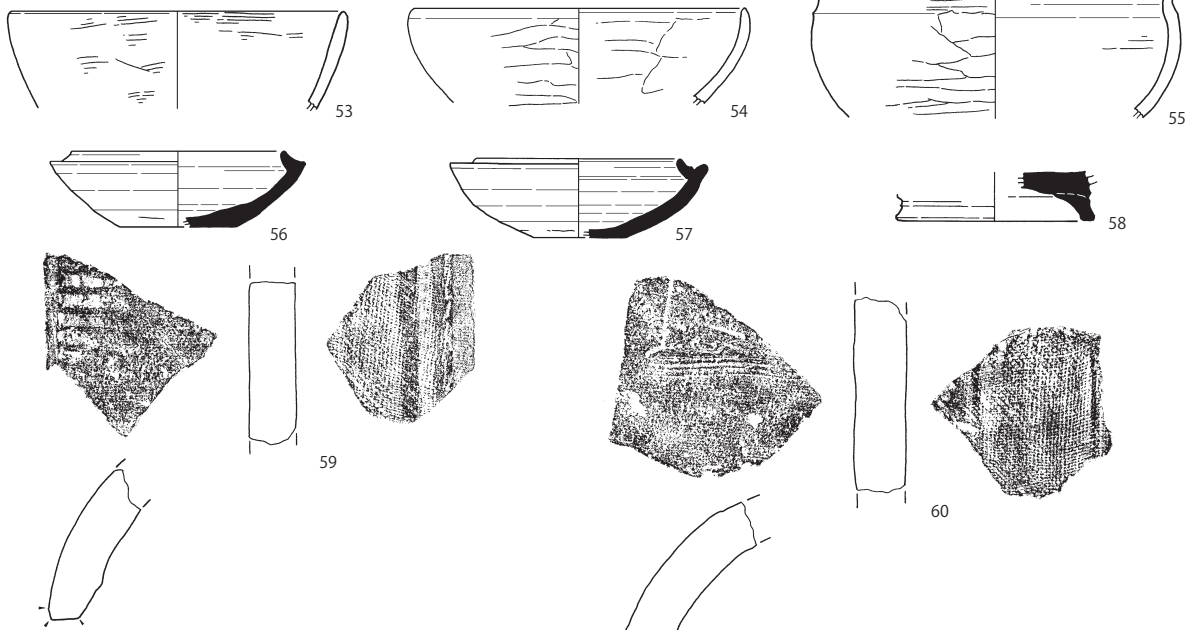
石列



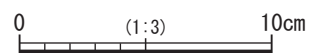
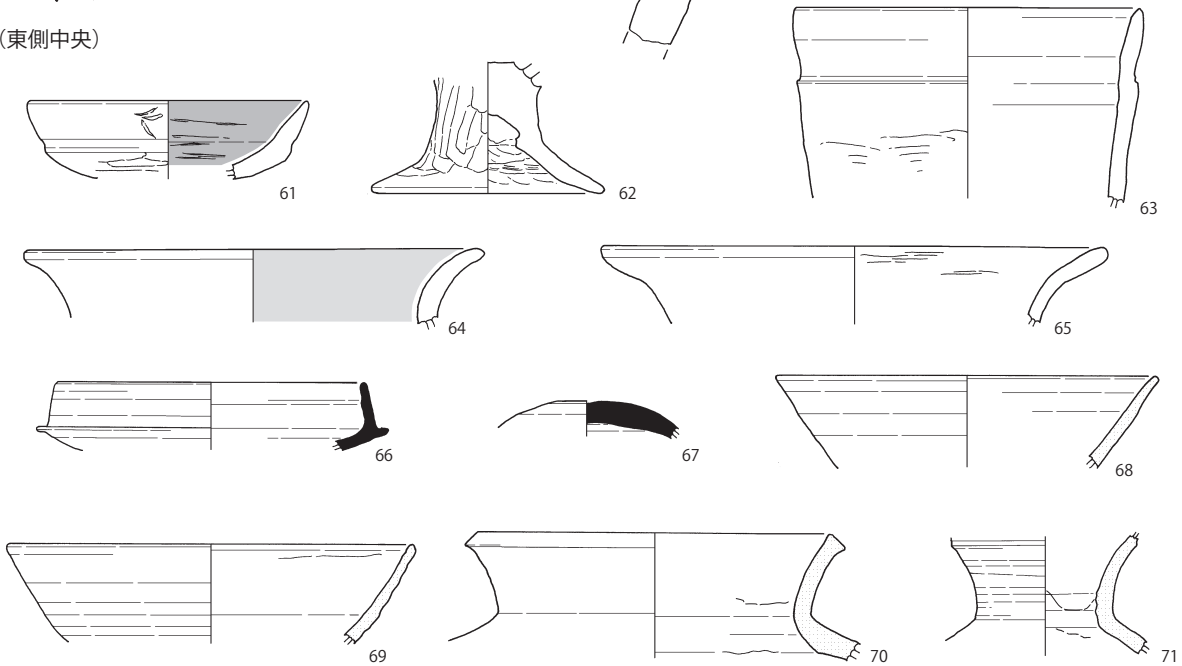
第8-3図 池ノ尻地点の遺物



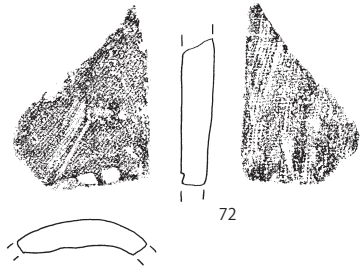
(北東)



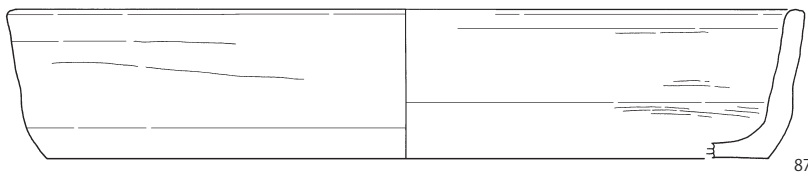
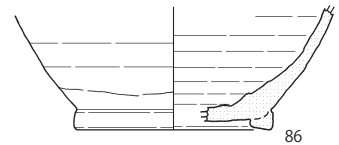
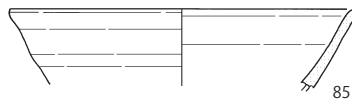
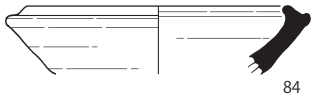
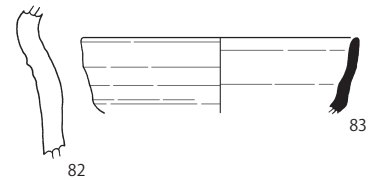
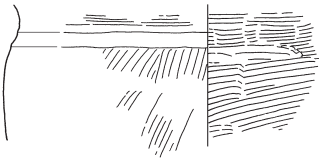
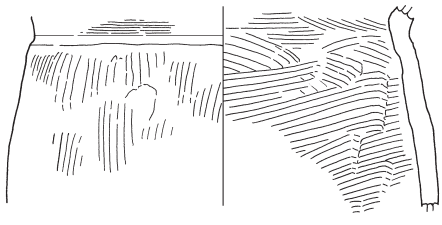
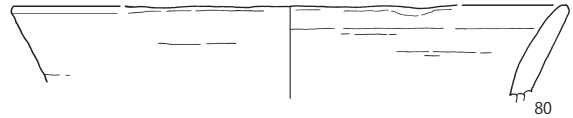
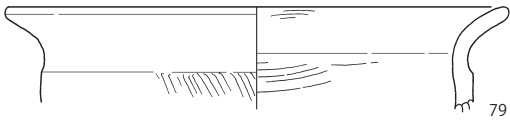
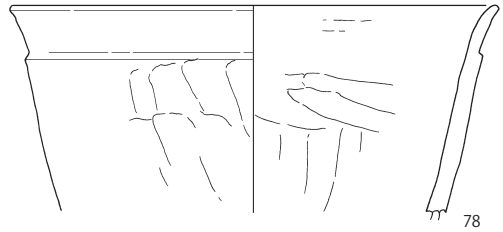
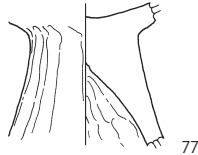
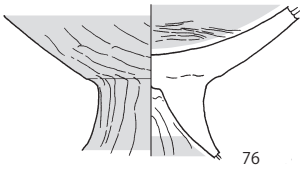
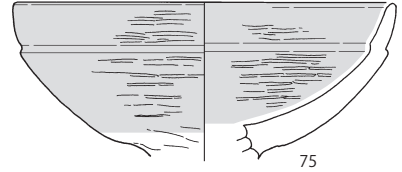
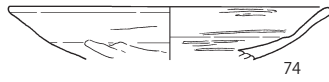
(東側中央)



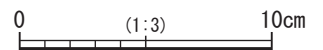
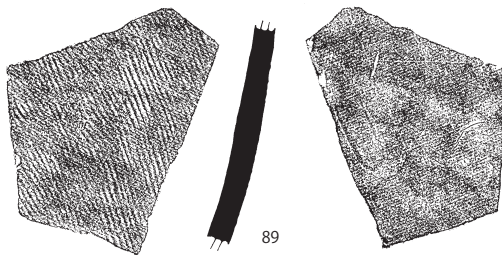
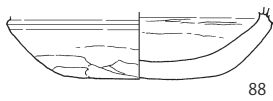
第8-4図 池ノ尻地点の遺物



(東側南)

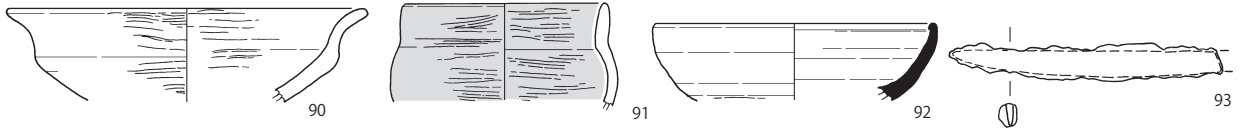


(東側)

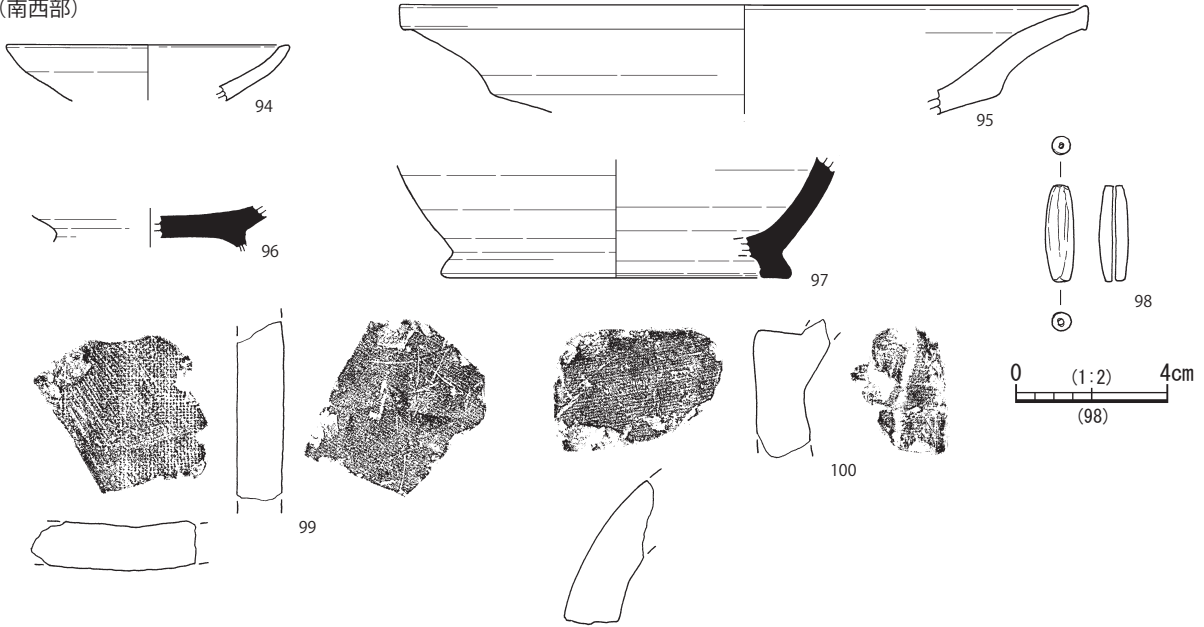


第8-5図 池ノ尻地点の遺物

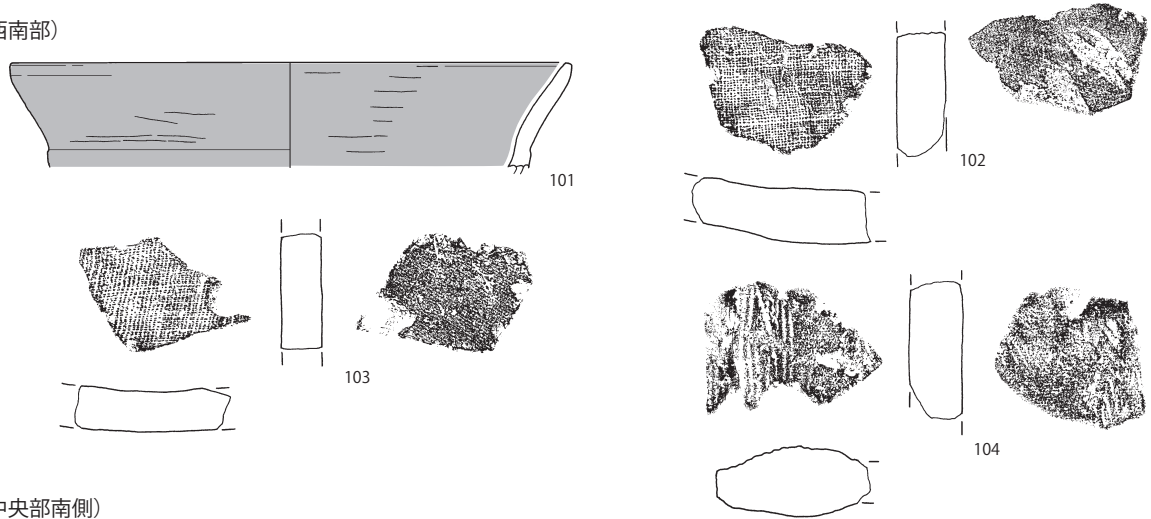
(南東部)



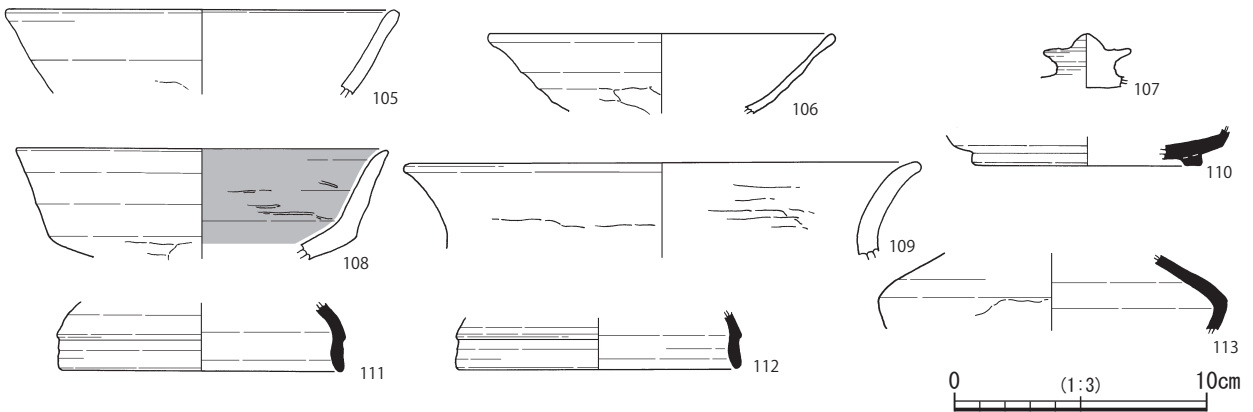
(南西部)



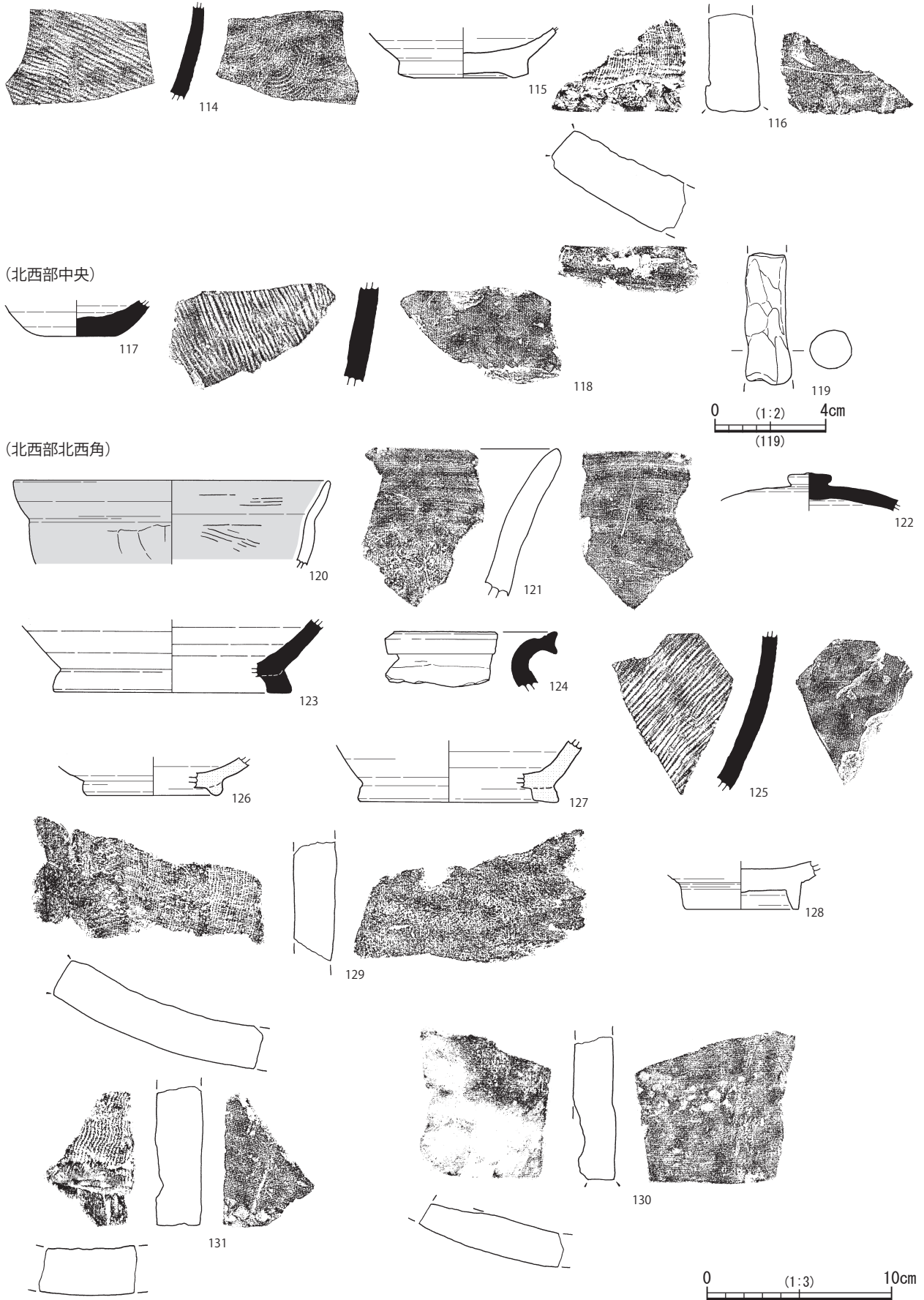
(西南部)



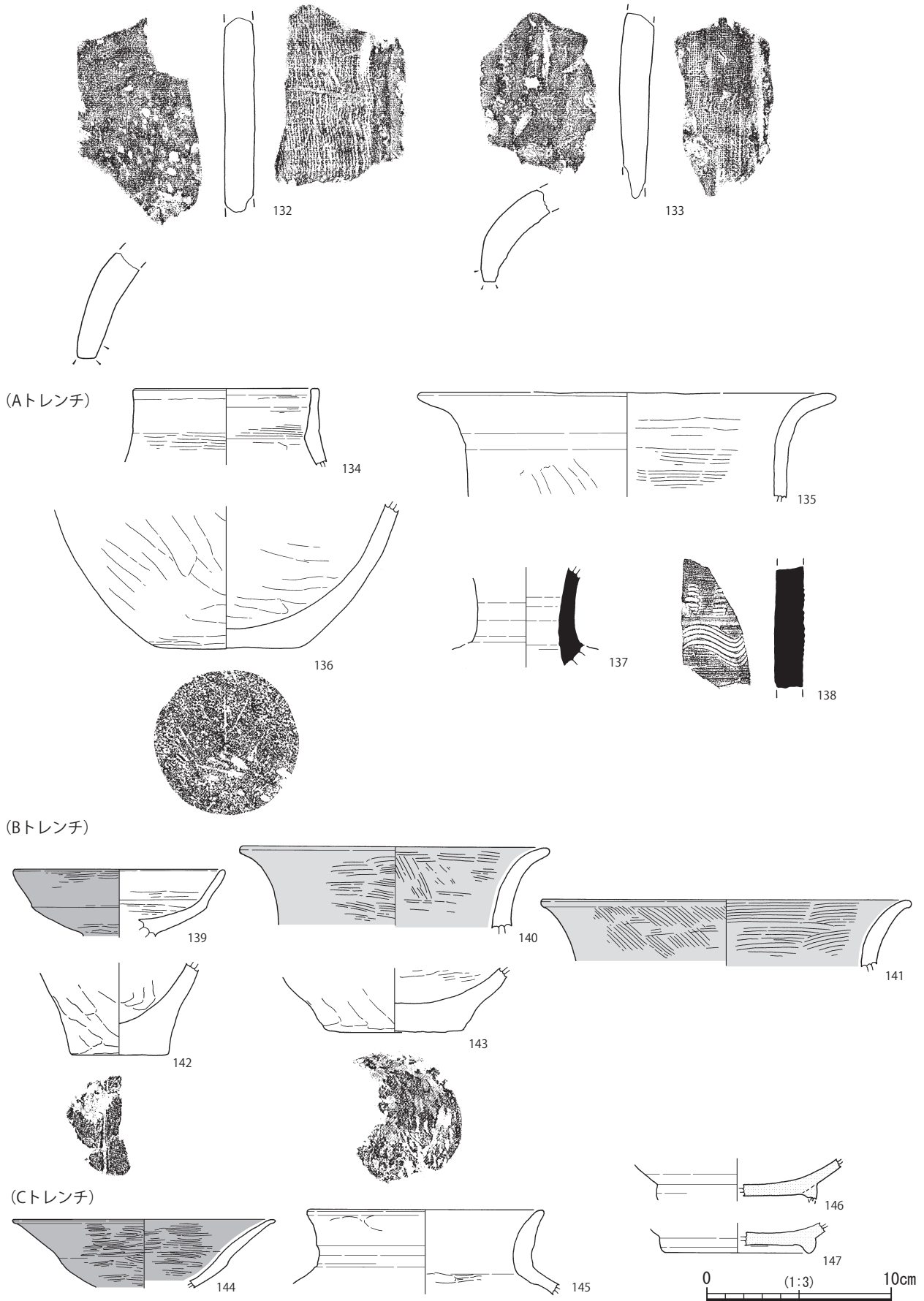
(中央部南側)



第8-6図 池ノ尻地点の遺物

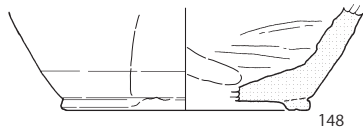


第8-7図 池ノ尻地点の遺物

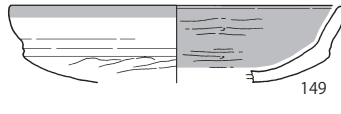


第8-8図 池ノ尻地点の遺物

(Dトレンチ)



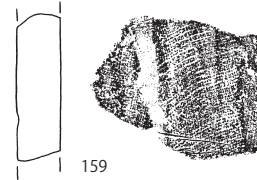
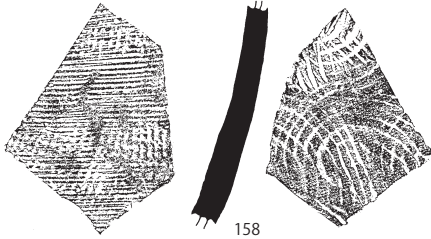
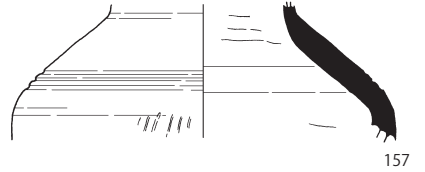
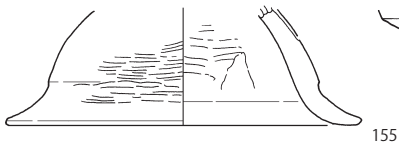
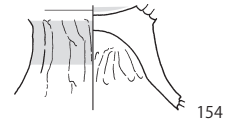
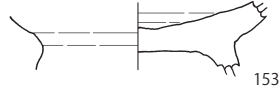
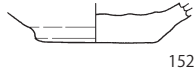
(Eトレンチ)



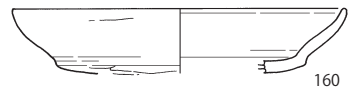
(Fトレンチ)



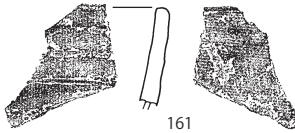
(Gトレンチ)



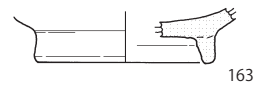
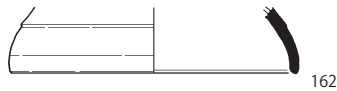
(Hトレンチ)



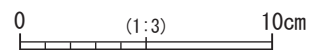
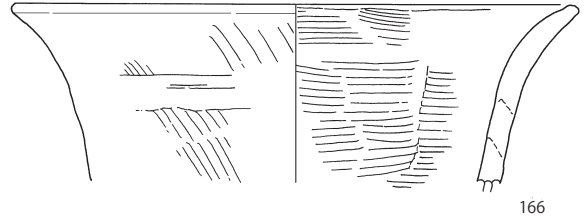
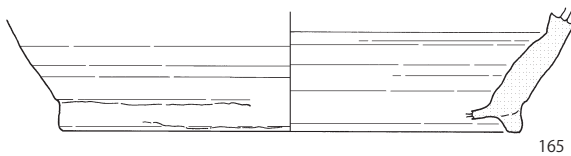
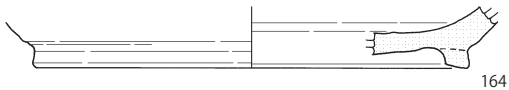
(東壁セクション)



(表採)



(1987年試掘出土資料)



第8-9図 池ノ尻地点の遺物

器模倣坏である。15～18は鉢、19～22、24は甕、23は壺、25は底が抜けた甑である。27～29は蓋で、29には上面に焼成前線刻がある。

3号竖穴 30は外面に縦位、内面に横位の細かな暗文を施文した8世紀中頃の大形の坏である。

4号竖穴 31、32は古墳時代後期の土師器。31は大形円筒形の土師器で、甑とみられる。32は甕形の甑。

1号溝 33～38は古墳後期（7C中）の土師器で、坏（33～37）、甕（38）がある。

トレンチおよび拡張区 A～Iトレンチと、中央拡張区出土の土器類である。土師器（39～50、59～68、71～80、84～104）、須恵器（51～57、69・70、81～83、105・106）、瓦（58）がある。土師器のうち48・49は古墳前期の壺形土器、85、100はS字甕、103は口唇部に刻みをもつ古墳前期の甕、Cトレンチの71～77についても古墳前期の土師器で、74は壺、75～77は甕、71・72は鉢（埴）、73は高坏である。また50も古墳前期～中期の甕であろう。44は13世紀以降の皿とみられる。6世紀前半の須恵器には蓋（53）、古墳後期～末の土師器には坏（39～42、59～61、63、78、84、86・87、89～95）、高坏（64、88、96・97）、甕（65、80、102）、甑（67、104）壺（66）、須恵器には蓋（54・55、69・70、83）、坏（81・82）がある。8世紀前半の土師器には坏（62）、須恵器には坏（51、83）、蓋（105）、8世紀代中頃の土師器には坏（46・47）、高台坏（45）、甕（57）などが存在する。58の平瓦には格子叩きの痕跡をもつ。

土器集中区 土師器（107～152）、須恵器（153～161）、凹み石（162）がある。土師器には坏（107～127）、高坏（128～130、133～137）、鉢（138・139）、甕（140～145、147、149、151・152）、壺（146、148、150）があり、須恵器には坏（153～156）、蓋（157～160）、小形壺（161）がある。153・154の返りのある坏、159の返りのある蓋、157の返りのない蓋は、いずれも7世紀前半とみられる。

## VI. 炭化材、炭化米と年代

池ノ尻地点の礎石建物の年代を探るため、1号建物の周囲で検出された炭化材、炭化米について株式会社パレオ・ラボに依頼し、樹種および種実同定、放射性年代測定を実施した（付編参照）。発掘調査のさいに採取された炭化米はブロック状を呈したものの、分離したのものがあ

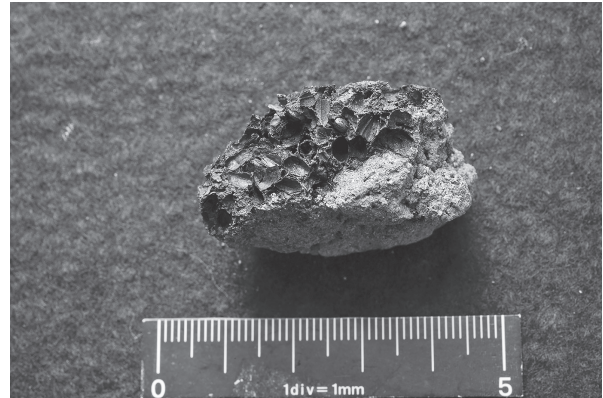


写真1

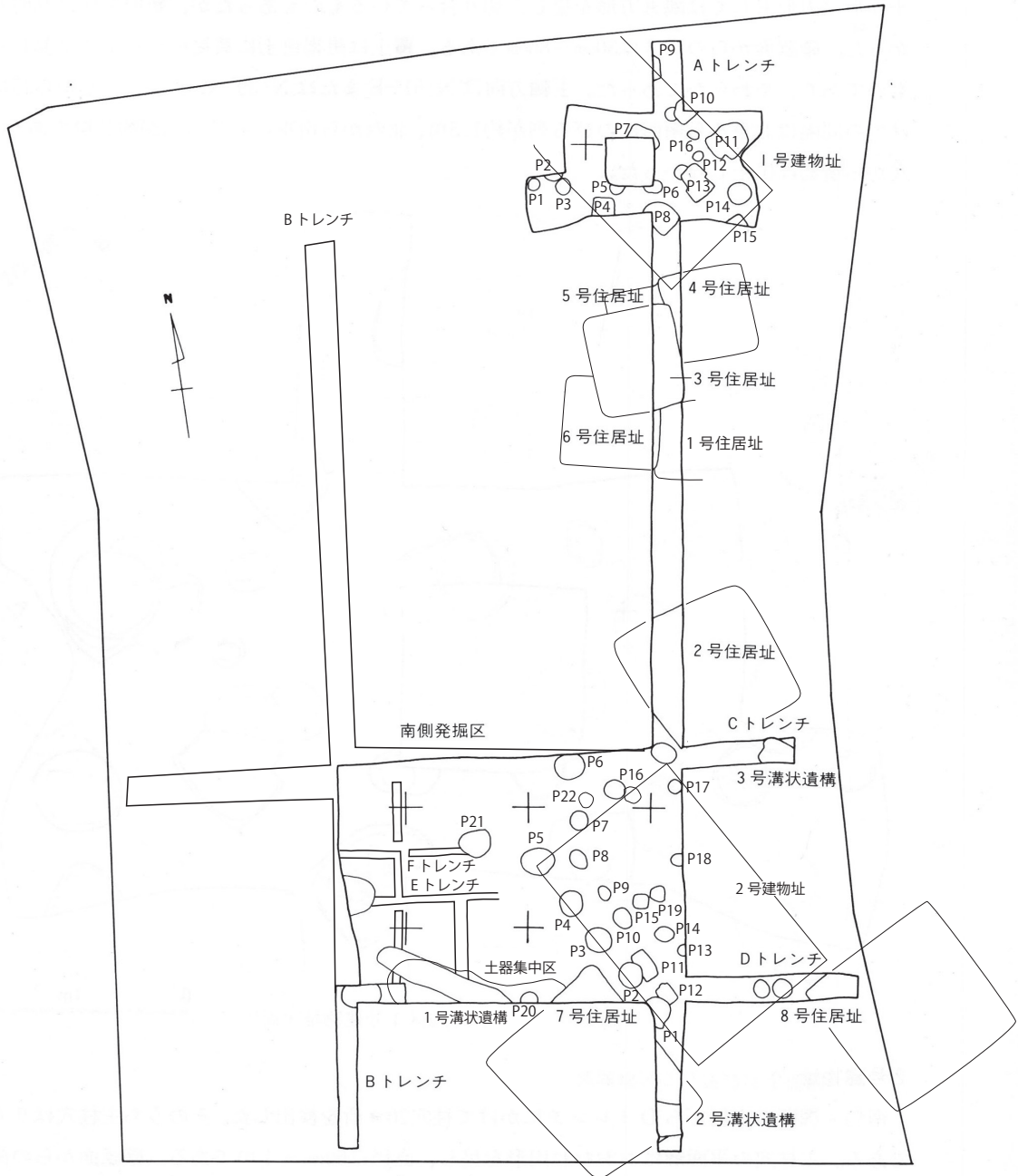
20cm四方のビニール袋で6袋分程度が存在する（写真1）。そうした中に炭化米以外の炭化材が含まれていた。

炭化材、炭化米の出土状況（第6図）については、報告によれば1号建物の北側から西側にかけて東西19m、南北23mの範囲で炭化材や炭化米を含む厚さ約10cmの土層（炭化層）が広がり、大きな炭化材はなかったという。炭化米は比較的均一に含まれ、礎石の間からも出土し、粉と認識されている。1号建物に伴うように炭化材が分布し、とくに炭化材、炭化米集中箇所が建物南西に存在したことから、礎石建物は米倉（正倉）であり、正倉に収納されていた粉が火災で焼失したことが想定されている。すなわち礎石建物と炭化物、炭化米は一体のもので、火災によって同時に形成されたと理解されている（春日居町教育委員会 1989・1994）。

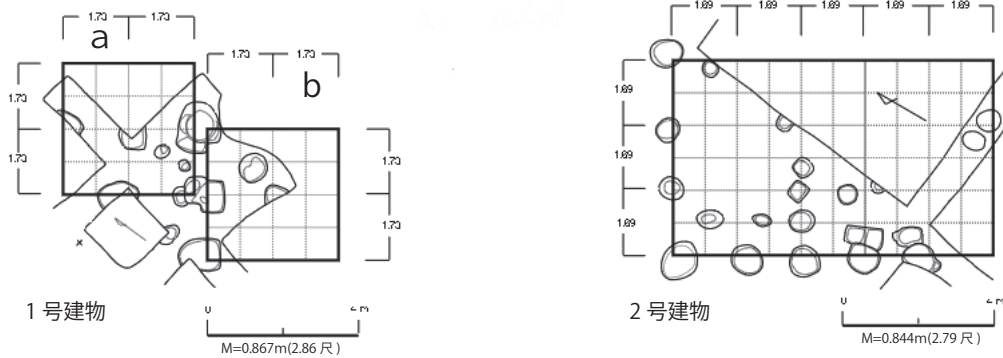
年代分析試料としたのは、Aトレンチ東採取の炭化米1点（試料A）と、同じ地点採取の炭化材1点（試料2）である（詳細地点は不明）。年代測定の前に炭化米の種実同定をおこない、炭化材は樹種同定を実施した。炭化材は約4cm四方で、約0.8cmの厚みがあり、肉眼観察では5枚程度の層状の年輪をもつ板材もしくは建築材とみられる炭化材で、屋根の板材（柿板）のようにも見えた。

分析の詳細に関しては付編に委ねるが、試料Aは穎稻であり、年代は7世紀末～8世紀前半の可能性が高い、という結果であった。この推定年代はイネが収穫された年代を意味している。また試料Bはヒノキで、6世紀末～7世紀前半代の年代値が得られたが、これについては測定箇所が年輪の内側の可能性があり、伐採年についてはさらに加算しなければならない。分析試料の年輪上での位置が定かでは





第9図 狐塚地点全体図  
(春日居町教育委員会 1990 に加筆)



第10図 室伏氏による狐塚地点の柱間想定 (室伏 2020)

ないが、さらに数十年分を加えることが許されるのであれば、7世紀後半以降の伐採年と考えられる。

炭化物が正倉建物に関するものであるという確証はないものの、礎石建物が焼失した際、内部に納められていた穎稲が同じ火災で焼失したことを前提にすれば、炭化材と炭化米の2つの炭化物は同時に形成されたとみてよいだろう。穎稲は、十年以上保管されていた古米と想定することも可能ではあるが、イネの収納年数は長く見積もって数年程度とすると、建物の焼失時期とイネの収穫時期の間には時間差がほとんどなかったと考えてよい。礎石建物の建立年代はそれ以前、7世紀後半～8世紀前半と想定でき、建築材と考えられる炭化材の推定伐採年が7世紀後半以降とする結果と矛盾はない。

しかしもっとも解明すべき点は、炭化材、炭化米を含む約10cmの炭化層と礎石との関係性である。調査完了時点とみられる概報の表紙写真によれば、根石がやや浮き上がった状態まで確認面が全体的に掘り下げられている（春日居町教育委員会 1989）。通常、礎石を据える場合、版築した地業面にピットを掘り、根石を配置し、礎石を据え、基壇面として整地するが、1号建物周辺では根石と同レベルに炭化層が堆積していたとみられること、建物を囲むようにして炭化層が分布し、建物周辺には砂質土壌を固めた基壇状の面があったことから、炭化層の形成は礎石建物以前ではなかったか、という疑問点が生じるのである。また建物東側の基壇状遺構とされる質の異なる土層堆積があり、西側には炭化層が分布し、ちょうど建物の範囲が異質な土層となっている。建物範囲の土質が周囲と異なっていたというのは、礎石建物構築のさいに行われた掘込地業の存在を示すのではないだろうか。そうであれば、炭化層は礎石建物以前の正倉焼失による形成後の整地層と考えることができる。この点については室伏氏らが礎石建物の時期を推定する際に疑問視してきた点であるが、調査担当の内田裕一氏によれば、炭化層は礎石上面を覆っていたのではなく、礎石周囲に存在した、とのことであった。したがって建物に伴う整地層の上層には炭化米や炭化材を含む炭化層が覆っていたと考えられる。すなわち、礎石建物は正倉の建替えにともなう改変と考えられる。

別の考え方として、礎石建物焼失と炭化層形成が同一時期の可能性を考える。つまり礎石建物が基壇上に存在した場合、礎石直下には周囲よりもわずかに

高い基壇面が存在し、周囲は低くなっていたと考えられる。したがって北側から西側にかけて建物を囲むように炭化層が分布するのは、火災、倒壊により基壇周囲に炭化層が堆積したためではないか。こうした推測によれば、報告に礎石の間からも炭化物が出土した、とあるのは、礎石建物焼失に伴う形成を示す可能性を残している。

このように、焼失した建物の建立年代は8世紀前半以前、建物焼失は8世紀前半であることが明らかとなったが、炭化層の形成が礎石建物に先行する前身建物の火災に起因する可能性があるとともに、礎石建物自体の焼失により炭化層が形成された可能性もまた考えねばならない。出土遺物からは時期推定が可能な遺物に乏しく、土師器類の年代幅は7世紀末～11世紀頃である。また瓦には7世紀末の寺本廃寺創建段階の格子叩きをもつ桶巻き作り平瓦と、8世紀後半の国分寺段階の縄叩きをもつ1枚作り平瓦があるが、どちらも量的にごくわずかなことから、寺本廃寺からの混入品であり、正倉は瓦葺きではなかったと考えられ、時期推定の材料にはならない。分析した板状の炭化物が柿板かどうかについては判断できなかったが、瓦が多量出土していないことから、屋根は板葺き、檜皮葺き等の可能性が高いと考えられる。

礎石建物の出現に関して、全国的に正倉建築が礎石建ちを採用するのは8世紀後半以降、9世紀前半にかけての事例が目立つ。したがって池ノ尻地点の礎石建物が例外的でなければ、8世紀後半以降の建築と推測され、正倉建替え説が妥当といえる。この点について室伏氏は柱間長にもとづく建築単位の分析から「この建物の時期は8世紀後半から9世紀であり、一般的に郡衙正倉建築が礎石化する時期と一致しており、山梨郡衙正倉院の一部と理解される」と指摘している（室伏 2008）。

各地の礎石建物によれば、掘立柱から礎石立ちへと改変した事例が存在するが、池ノ尻地点ではピット等の下層遺構の存在は確認されていないものの、礎石下層の断面断ち割りを実施していないので、掘込地業やピットが存在した可能性は否定できない。今後の検証のための調査を待ちたいと思う。なお、礎石建物以前に前身建物があったとすれば寺本廃寺の創建段階に相当し、寺本廃寺とほぼ同時期に正倉が存在したこととなり、寺院と正倉の一体的な配置、運営が考えられる。また、全国的に正倉院は郡衙施

設として存在することが多いことから、池ノ尻地点から寺本廃寺にかけての一带が山梨郡衙正倉院と寺院エリアと推察される。

寺本廃寺では、8世紀後半段階に国分寺創建段階の軒丸瓦を補修瓦として用い、その後もしばらくは国分寺補修瓦が使用されたことが出土瓦の様相から判明しているが、これは寺本廃寺が甲斐国分寺と同じ瓦の使用を認められていたことを意味する。つまり、寺本廃寺と甲斐国分寺の造営者、経営者が同じであったか、あるいは寺本廃寺が甲斐国分寺と同列の国府寺であった、または国分寺造瓦に協力して使用が許可された、などの可能性が考えられる。

国分寺瓦が補修瓦として地方寺院に使用される件に関しては梶原義美氏が整理している。つまり、これまでは国分寺造営に協力した郡司層への報償とする森郁夫氏の説が支持されてきたが、地方造瓦組織の国分寺一極集中のなかで、生産組織の集約化、一元化が進み、「国内諸寺の補修瓦は、基本的には国分寺瓦屋で賄うしか道がなくなった」とのではないかと述べている（梶原 2009）。また梶原氏は国府寺についても言及し、文献上で実在が確認されていない「国府寺」（国府付属寺院）については、少なくとも七堂伽藍を備えた大寺院ではなかったという見解を示した。

寺本廃寺に関しては坂本大輔氏も考察を加えており、国府付属寺院は存在しなかったこと、寺本廃寺は山梨郡司の氏寺であり、「公的仏教行事の際には国司らによって使用された可能性」を想定する（坂本 2006）。また寺本廃寺の補修瓦に国分寺瓦が使用されているのは、瓦供給に協力した見返りとして、国分寺造営に協力した郡司層に対し、瓦使用が認められたと考える。なお、氏寺、郡衙付属寺院（郡衙周辺寺院）については三舟隆之氏の研究に詳しく、より厳密な用語の使用を求めている（三舟 2013）

このように、寺本廃寺で8世紀後半から9世紀代に国分寺瓦を補修瓦とする点については、寺本廃寺の性格、国府との関係を探る上で意義があり、この点に関しても今後の課題としたい。なお、寺本廃寺からは8世紀後半代の墨書土器「禅院」が出土した（第3図）。これは寺本廃寺の寺域内の一角に、山林、在地での禅行修行のための院が存在したことを示唆するもので（三崎 1991）、寺本廃寺がそうした付属院をもつ格式の寺院であったとすると、単なる氏寺ではなく、より公的、国家的性格を帯びた寺院で

はなかったかと考えることができる。

## VII. まとめ

本稿では笛吹市春日居町国府周辺で実施されてきた国府関連遺跡調査のうち、池ノ尻地点と狐塚地点の調査成果について、とくに出土遺物に関する整理を実施し、資料提示を行った。また池ノ尻地点の1号建物に伴うとされる炭化物について年代測定等を実施した。

池ノ尻地点では礎石建物の時期を決定する資料はないものの、総柱式であること、周囲に多量の炭化米を含む炭化層が分布したことから正倉であることは確かだが、礎石建物の年代観については年代測定の成果を得て、7世紀後半造営説と8世紀後半以降の正倉建替え説を提示した。全国的な傾向からは後者の可能性が高く、炭化米、炭化材は前身建物に伴うものとなり、前身建物造営は7世紀後半、焼失は8世紀前半、礎石建物造営は8世紀後半以降と考えられる。出土遺物からは年代的な検討材料が少ないものの、礎石下層の掘込地業や掘立柱のピットの有無確認が今後必要といえる。

狐塚地点については、大きく西偏した方向の掘立柱建物および堅穴の年代が7世紀前半～末と推測され、掘立柱建物については初期評衙関連の施設の可能性が提唱されているが、部分的な調査であることに加え、評衙を裏付ける特殊遺物はない。また建物の周囲にはほぼ同時期の堅穴が分布し、それらはセットで存在するようにもみえることから、居宅的な様相があり、遺跡の評価に対しては慎重な判断が必要といえる。さらに8世紀中葉に堅穴の向きを北方位に変更する点<sup>5)</sup>は、池ノ尻地点の建物の年代を探る上で参考になる。

池ノ尻地点で検出された礎石建物は郡衙正倉が確定的といえるが、円面硯や腰帯具、印刻花文をもつ施釉陶器、鉤等の金属製品など、官衙に付きものの特殊遺物が皆無である。墨書土器には寺本廃寺出土の墨書文字「守」が国司官位を意味する可能性があるとするれば唯一の関連資料になるが、それ以外に施設名を記した墨書土器等はない。どちらかといえば一般集落からの出土品の様相と大差なく、官衙的な様相を著しく欠いている。とくに国府の存在を示す資料がないことから、国府地区に国府を想定する根拠が希薄で、坂本大輔氏らが8世紀段階での国府の

第2表 狐塚地点観察表

| 図    | 遺跡名 | 遺構名   | 番号 | 器種      | 注記                | 日付     | 備考    |
|------|-----|-------|----|---------|-------------------|--------|-------|
| 11-1 | 狐塚  | 1号建物  | 1  | 土師器 甕   | 1建 No.2           | 900330 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 1号建物  | 2  | 土師器 甕   | 1建 P10            | 900310 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 3  | 土師器 坏   | 2建 P3             | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 4  | 土師器 高坏  | 2建 P7             | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 5  | 土師器 高坏  | 2建 P19            | 900328 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 6  | 土師器 甕   | 2建 P16            | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 7  | 土師器 壺   | 2建 P2             | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 8  | 土師器 壺   | 2建 P4             | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 9  | 土師器 甕   | 2建 P10            | 900323 | 内黒    |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物? | 10 | 須恵器 坏   | 2建 P20            | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号建物  | 11 | 須恵器 提瓶  | 2建 P9             | 900323 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 12 | 土師器 坏   | Aトレ2住 南側          | 900320 | 内外黒   |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 13 | 土師器 坏   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 14 | 土師器 坏   | Aトレ2住             | 900402 | 内黒    |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 15 | 土師器 坏   | Aトレ2住 南側          | 900320 | 内黒    |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 16 | 土師器 鉢   | Aトレ2住 北           | 900320 | 外黒    |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 17 | 土師器 鉢   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 18 | 土師器 鉢   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 19 | 土師器 甕   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 20 | 土師器 甕   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-1 | 狐塚  | 2号竪穴  | 21 | 土師器 壺   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 22 | 土師器 甕   | Aトレ2住 表土          | 900310 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 23 | 土師器 甕   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 24 | 土師器 甕   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 25 | 土師器 甕   | Aトレ2住 北           | 900320 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 26 | 土師器 S字甕 | Aトレ2住 表土          | 900310 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 29 | 須恵器 坏   | Aトレ2住 南側          | 900320 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 27 | 須恵器 蓋   | Aトレ2住 北Ⅱ・Ⅳ層       | 900315 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 2号竪穴  | 28 | 須恵器 蓋   | Aトレ2住 南側Ⅱ層        | 900312 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 3号竪穴  | 30 | 土師器 坏   | Aトレ3住             | 900320 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 4号竪穴  | 31 | 土師器 甕?  | Aトレ4号住 No.3       | 900328 | 43と接合 |
| 11-2 | 狐塚  | 4号竪穴  | 32 | 土師器 甕   | Aトレ4号住 No.2       | 900328 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 1号溝   | 33 | 土師器 坏   | 1号溝 No.5          | 900402 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 1号溝   | 34 | 土師器 坏   | 1号溝 東側            | 900327 | 内黒    |
| 11-2 | 狐塚  | 1号溝   | 35 | 土師器 坏   | 1号溝               | 900402 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 1号溝   | 36 | 土師器 坏   | 1号溝 No.15         | 900402 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 1号溝   | 37 | 土師器 坏   | 1号溝               | 900402 |       |
| 11-2 | 狐塚  | 1号溝   | 38 | 土師器 甕   | 1号溝 No.2          | 900402 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 39 | 土師器 坏   | Aトレ 北東西拡張区Ⅱ層      | 900305 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 40 | 土師器 坏   | Aトレ 南側4層          | 900312 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 41 | 土師器 坏   | Aトレ 南角            | 900219 | 内黒    |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 42 | 土師器 坏   | Aトレ 南側            | 900221 | 内外黒   |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 43 | 土師器 坏   | Aトレ 南角            | 900219 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 44 | 土師質 皿   | Aトレ 北拡張区Ⅲ層        | 900307 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 45 | 土師器 高台坏 | Aトレ1号建物 南溝状遺構Ⅲ・Ⅳ層 | 900319 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 46 | 土師質 坏   | Aトレ 表土Ⅱ層          | 900217 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 47 | 土師質 坏   | Aトレ 表土Ⅰ層          | 900217 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 48 | 土師質 壺   | Aトレ 北拡張区Ⅲ層        | 900307 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 49 | 土師質 壺   | Aトレ 表土Ⅰ層          | 900217 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 50 | 土師器 甕   | Aトレ中央住居 周辺        | 900228 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 51 | 須恵器 坏   | Aトレ1号建物 南溝状遺構Ⅲ・Ⅳ層 | 900319 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 52 | 須恵器 蓋   | Aトレ 南側            | 900221 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 53 | 須恵器 蓋   | Aトレ 表土Ⅱ層          | 900217 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 54 | 須恵器 蓋   | Aトレ 南角            | 900219 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 55 | 須恵器 蓋   | Aトレ 南角            | 900219 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 56 | 須恵器 坏   | Aトレ 表土Ⅱ層          | 900217 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 57 | 須恵器 甕   | Aトレ 表土Ⅱ層          | 900217 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Aトレンチ | 58 | 平瓦      | Aトレ 南側Ⅲ・Ⅳ層        | 900228 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 59 | 土師器 坏   | Bトレ 南             | 900228 | 内外赤   |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 60 | 土師器 坏   | Bトレ 南角Ⅰ・Ⅳ層        | 900313 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 61 | 土師器 坏   | Bトレ 南 No.4        | 900409 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 62 | 土師器 坏   | Bトレ               | 900219 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 63 | 土師器 坏   | Bトレ 南角Ⅰ・Ⅳ層        | 900313 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 64 | 土師器 高坏  | Bトレ 南 No.2        | 900403 | 内外黒   |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 65 | 土師器 甕   | Bトレ Ⅰ・Ⅱ層          | 900215 |       |
| 11-3 | 狐塚  | Bトレンチ | 66 | 土師器 壺   | Bトレ Ⅰ・Ⅱ層          | 900215 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Bトレンチ | 67 | 土師器 甕?  | Bトレ 北側            | 900217 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Bトレンチ | 68 | 土師器 S字甕 | Bトレ 南角Ⅳ層          | 900323 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Bトレンチ | 69 | 須恵器 蓋   | Bトレ 中央            | 900217 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Bトレンチ | 70 | 須恵器 蓋   | Bトレ               | 900219 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ | 71 | 土師器 坏   | Cトレ 西側            | 900219 | 内外赤   |
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ | 72 | 土師器 鉢   | Cトレ 中央東側          | 900301 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ | 73 | 土師器 高坏  | Cトレ 中央Ⅱ層          | 900301 |       |
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ | 74 | 土師器 壺   | Cトレ               | 900228 | 内外赤   |
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ | 75 | 土師器 壺   | Cトレ 東角Ⅲ・Ⅳ層        | 900319 |       |

| 図    | 遺跡名 | 遺構名     | 番号  | 器種      | 注記               | 日付     | 備考      |
|------|-----|---------|-----|---------|------------------|--------|---------|
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ   | 76  | 土師器 甕   | Cトレ 中央Ⅱ層         | 900301 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Cトレンチ   | 77  | 土師器 甕   | Cトレ              | 900228 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Dトレンチ   | 78  | 土師器 坏   | Dトレ 東角           | 900324 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Dトレンチ   | 79  | 土師器 甕   | Dトレ 中央東側Ⅱ層       | —      |         |
| 11-4 | 狐塚  | Dトレンチ   | 80  | 土師器 甕   | Dトレ 中央東側Ⅱ層       | —      |         |
| 11-4 | 狐塚  | Dトレンチ   | 81  | 須恵器 坏   | Dトレ 東側3層         | 900309 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Dトレンチ   | 82  | 須恵器 坏   | Dトレ 東側3層         | 900309 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Dトレンチ   | 83  | 須恵器 蓋   | Dトレ 中央東側Ⅱ層       | —      |         |
| 11-4 | 狐塚  | Eトレンチ   | 84  | 土師器 坏   | Eトレ              | 900324 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Fトレンチ   | 85  | 土師器 S字甕 | Fトレ Ⅲ・Ⅳ層         | 900316 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Iトレンチ   | 86  | 土師器 坏   | Iトレ1号溝内          | 900327 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Iトレンチ   | 87  | 土師器 高坏? | Iトレ              | 900327 |         |
| 11-4 | 狐塚  | Iトレンチ   | 88  | 土師器 高坏  | Iトレ1号溝内          | 900327 |         |
| 11-4 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 89  | 土師器 高坏? | 中央区南側中央Ⅳ層        | 900309 | 内外赤     |
| 11-4 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 90  | 土師器 坏   | 中央区西側焼土周辺        | 900314 | 内外黒     |
| 11-4 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 91  | 土師器 坏   | 中央区南西角Ⅳ層         | 900309 | 内黒?     |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 92  | 土師器 坏?  | 中央区南側中央Ⅳ層        | 900309 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 93  | 土師器 坏   | 中央区表採            | 900309 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 94  | 土師器 坏   | 中央区西側焼土周辺        | 900314 | 外黒      |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 95  | 土師器 坏   | 中央拡張区Ⅲ層          | 900307 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 96  | 土師器 高坏? | 中央拡張区中央Ⅲ層        | 900308 | 内外黒     |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 97  | 土師器 高坏  | 中央拡張区Ⅲ層          | 900308 | 外赤      |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 98  | 土師器 坏   | 中央拡張区Ⅱ層          | 900305 | 内黒      |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 99  | 土師器 小形蓋 | 拡張区中央Ⅲ層          | 900302 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 100 | 土師器 S字甕 | 中央拡張区Ⅱ層          | 900305 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 101 | 土師器 台付甕 | 拡張区中央Ⅲ層          | 900302 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 102 | 土師器 甕   | 中央区南西角Ⅳ層         | 900309 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 103 | 土師器 甕   | 中央拡張区中央Ⅲ層        | 900308 | キザミ口縁   |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 104 | 土師器 甕?  | 中央区南西角Ⅳ層         | 900309 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 105 | 須恵器 蓋   | 中央拡張区南側Ⅲ層        | 900308 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 中央(拡張区) | 106 | 須恵器 蓋   | 中央拡張区Ⅲ層          | 900308 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 107 | 土師器 坏   | 中央区南土器集中区Ⅱ層      | 900308 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 108 | 土師器 坏   | 中央区南土器集中区Ⅱ層      | 900308 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 109 | 土師器 坏   | 中央区南土器集中区Ⅱ層      | —      | 内黒      |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 110 | 土師器 坏   | 中央区南側土器集中区Ⅳ層     | 900310 | 内外黒     |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 111 | 土師器 坏   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 112 | 土師器 坏   | 土器捨場東側           | 900323 | 内黒      |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 113 | 土師器 坏   | 中央区南側土器集中区Ⅲ層     | 900312 | 内外黒     |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 114 | 土師器 坏   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 115 | 土師器 坏   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 116 | 土師器 坏   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 117 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | —      |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 118 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | —      |         |
| 11-5 | 狐塚  | 土器集中区   | 119 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | 900324 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 120 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | —      |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 121 | 土師器 坏   | 2号建物 土器捨場 No.12  | —      |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 122 | 土師器 坏   | 2号建物 土器捨場 No.12  | —      |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 123 | 土師器 坏   | 2号建物 土器捨場 No.12  | —      | 内外黒     |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 124 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | —      | 内黒      |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 125 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | 900323 | 内黒      |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 126 | 土師器 坏   | 土器捨場西側           | 900324 | 外黒      |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 127 | 土師器 坏   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 128 | 土師器 高坏  | 2号建物 土器捨場 No.12  | —      | 内外赤     |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 129 | 土師器 高坏  | 土器捨場 No.12・No.25 | 900324 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 130 | 土師器 高坏  | 中央区南土器集中区Ⅱ層      | 900308 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 131 | 土師器 高坏? | 土器捨場東側           | 900323 | 内外赤     |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 132 | 土師器 高坏? | 2号建物 土器捨場 No.12  | —      |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 133 | 土師器 高坏  | 土器捨場西側Ⅳ層         | 900327 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 134 | 土師器 高坏  | 中央区南側土器集中区Ⅳ層     | 900309 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 135 | 土師器 高坏  | 土器捨場 No.21       | 900323 | 外赤      |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 136 | 土師器 高坏  | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 137 | 土師器 高坏  | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 138 | 土師器 鉢   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 139 | 土師器 鉢   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 140 | 土師器 甕?  | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 141 | 土師器 甕   | 土器捨場 P12 No.12   | 900326 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 142 | 土師器 甕   | 中央区南側土器集中区Ⅲ層     | 900312 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 143 | 土師器 甕   | 中央区南側土器集中区Ⅳ層     | 900309 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 144 | 土師器 甕   | 土器捨場 No.12       | 900326 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 145 | 土師器 甕   | 土器捨場西側           | —      |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 146 | 土師器 壺   | 中央区南土器集中区        | 900308 |         |
| 11-6 | 狐塚  | 土器集中区   | 147 | 土師器 甕   | 土器捨場東側           | 900323 |         |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区   | 148 | 土師器 甕   | 土器捨場 P12 No.12   | 900407 |         |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区   | 149 | 土師器 甕   | 土器捨場 P12 No.12   | 900324 | 129と同一か |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区   | 150 | 土師器 壺   | 土器捨場 P12 No.12   | 900324 | 128と同一か |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区   | 151 | 土師器 甕   | 土器捨場底            | 900407 |         |

| 図    | 遺跡名 | 遺構名   | 番号  | 器種      | 注記              | 日付     | 備考  |
|------|-----|-------|-----|---------|-----------------|--------|-----|
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 152 | 土師器 甕   | 土器捨場底           | 900407 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 153 | 須恵器 坏   | 中央区南側土器集中区Ⅲ層    | 900312 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 154 | 須恵器 坏   | 土器捨場西側          | 900323 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 155 | 須恵器 坏   | 土器捨場西側          | 900324 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 156 | 須恵器 坏   | 中央区南側土器集中区Ⅳ層    | 900309 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 157 | 須恵器 蓋   | 土器捨場            | —      |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 158 | 須恵器 蓋   | 土器捨場            | —      |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 159 | 須恵器 蓋   | 中央区南土器集中区Ⅱ層     | 900308 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 160 | 須恵器 蓋   | 中央区南土器集中区Ⅱ層     | —      |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 161 | 須恵器 壺   | 中央区南側土器集中区      | 900309 |     |
| 11-7 | 狐塚  | 土器集中区 | 162 | 石製品 凹み石 | 中央区南側土器集中区Ⅲ層    | 900309 |     |
| 11-8 | 狐塚  |       | 163 | 土師器 坏   | 表採              | 900409 |     |
| 11-8 | 狐塚  |       | 164 | 土師器 S字甕 | 表採              | 900410 |     |
| 11-8 | 狐塚  |       | 165 | 平瓦      | 遺構名不明           | —      |     |
| 11-8 | 狐塚  |       | 166 | 丸瓦      | 遺構名不明           | —      |     |
| 11-8 | 狐塚  |       | 167 | 須恵器 坏   | 談話室地区           | 900328 |     |
| 11-8 | 大中寺 |       | 168 | 土師器 坏   | Cトレ 北側東?西角表土・攪乱 | 900223 | 外赤  |
| 11-8 | 大中寺 |       | 169 | 土師器 鉢   | Cトレ 西側          | 900228 |     |
| 11-8 | 大中寺 |       | 170 | 土製品 不明  | Cトレ 東側          | 900223 |     |
| 11-8 | 大中寺 |       | 171 | 土師器 甕   | Cトレ 北側東?西角表土・攪乱 | 900223 |     |
| 11-8 | 大中寺 |       | 172 | 土師器 甕   | Cトレ 北側東?西角表土・攪乱 | 900223 | 内外赤 |
| 11-8 | 大中寺 |       | 173 | 土師器 甕   | Cトレ 西側          | 900228 |     |
| 11-8 | 砂原町 |       | 174 | 土師器 坏   | A区              | 900209 | 内外黒 |
| 11-8 | 砂原町 |       | 175 | 土師器 壺   | A区              | 900209 |     |
| 11-8 | 砂原町 |       | 176 | 土師器 甕   | A区Ⅱ層            | 900210 |     |
| 11-8 | 砂原町 |       | 177 | 白磁 皿    | 調査区北東表土・攪乱(A地区) | 900208 |     |
| 11-8 | 砂原町 |       | 178 | 丸瓦      | 調査区北東表土・攪乱(A地区) | 900208 |     |
| 11-8 | その他 |       | 179 | 須恵器 甕   | 窪田悦雄氏畑          | 900213 |     |

存在を疑問視するのも納得できる。

しかし、近年の有力説といえる11世紀後半での国府移転説に関しては、とくに考古学的な見地から検討の余地がある。つまり、寺本廃寺では10世紀後半代に寺域や伽藍地内に堅穴が進出し、周辺的一般集落が集落域の拡大をみせ、寺本廃寺は11世紀代に規模の縮小、衰退もしくは廃寺化したと考えられる。また11世紀代の国府関連の遺構、遺物が未確認な現状では、11世紀移転説についてはただちに賛同することはできず、今後の課題としたい。

このように、本稿では国府に関する手がかりが少ないなか、2地点の出土遺物を明らかにし、年代に関するデータを公表するとともに池ノ尻地点の礎石建物の年代観に関する見直し案を提示し、春日居町国府地区に甲斐国府を想定することについては容易ではない点を述べた。これらの成果を今後の議論の基礎的なデータ、情報としたいと考える。

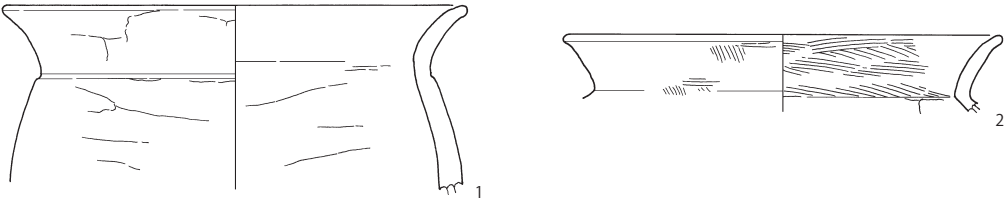
最後に、本稿作成にあたり笛吹市教育委員会および望月和幸氏、内田裕一氏、瀬田正明氏、江草俊作氏には資料借用においてご理解、ご協力いただいた。また室伏徹氏、平野修氏、大隅清陽氏、川崎剛氏をはじめとする甲斐国府・国衛研究会および古代官衛研究会、甲斐条里研究会の皆様には研究会活動を通じてご教示いただいた。また図表は佐野眞雪氏、櫛原ゆかり氏が作成し、種実・樹種同定および年代測定に関しては、2020年度に帝京大学研究費により株

式会社パレオ・ラボに委託して実施した。関係各位には心より感謝申し上げる次第である。

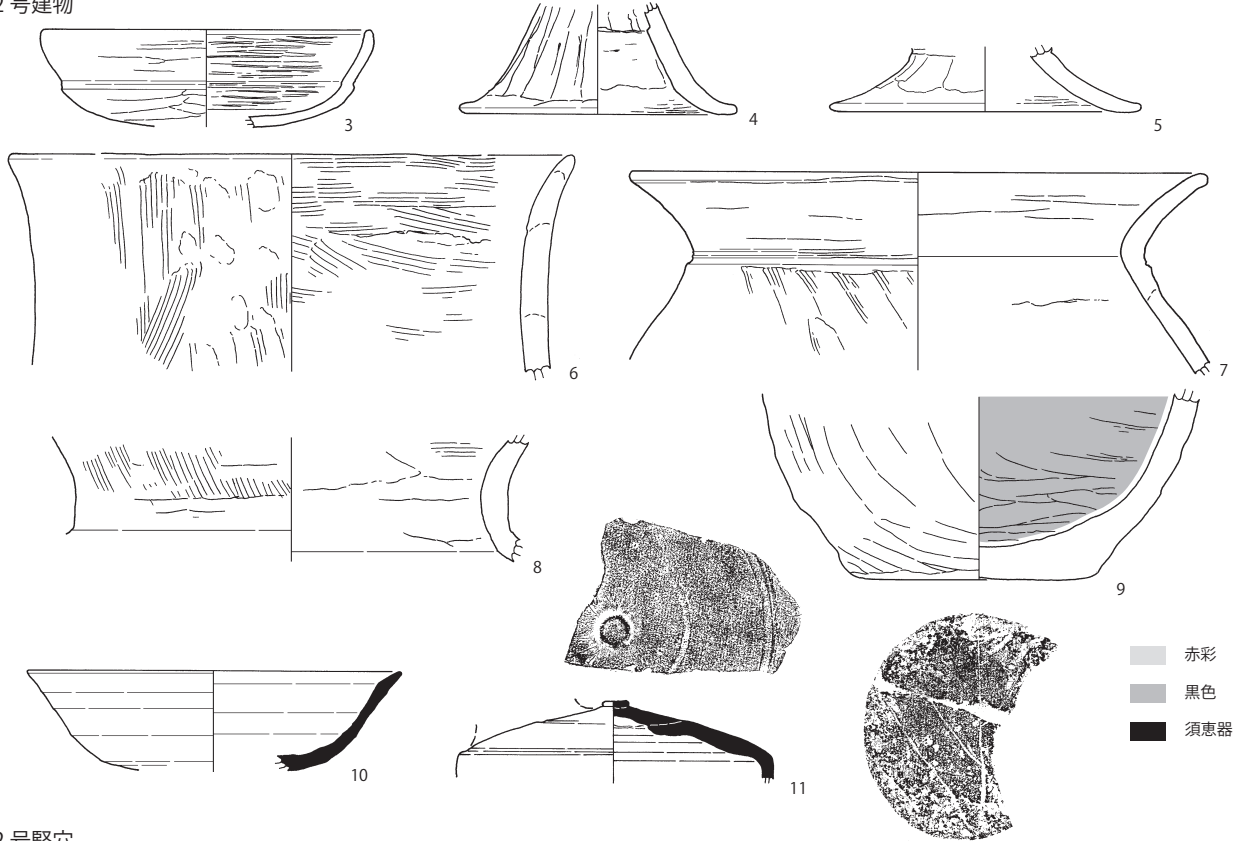
## 註

- 1) 山梨県古代官衛・寺院跡詳細遺跡分布調査では、笛吹市御坂町成田の半行寺遺跡で試掘調査が行われ、8世紀第4四半期を主とした土師器、須恵器、瓦が出土し、多数の墨書文字が見ついている。旧河道に面して位置し、官衛関連遺跡の可能性もある。また御坂町国衛地内の横畑遺跡では、もと土塁があったという地点で試掘調査が行われ、古墳後期の土器群のほか、平安末～中世の遺物があり、1点のみ石製丸軋が出土した。
- 2) 概報には遺物の写真のみが掲載され、昭和63年度から平成4年度までをまとめた『国府関連遺跡発掘調査報告書』（春日居町教育委員会 1994）では各地点の主要遺物の実測図が掲載され、出土遺物の概要が把握可能である。しかし出土遺物の多くは未洗浄、未注記で、同封ラベルが腐敗して文字が判読できないものが多数あることから、主だった遺物のみを抽出、報告したものであった。今回の実測にあたっては、遺物を収納袋から出し、すべての破片をチェックしたうえで、実測可能な資料を選別し、接合資料を抜き出し、洗浄、注記ののち実測をしたが、報告済の遺物に関しては再実測をしていない。
- 3) 春日居町国府における国府解明は、地元国府在住の故野沢昌康氏（元山梨県考古学協会会長）のライフワークであった。帝京大学文化財研究所に寄贈された野沢資料のなかに「『国府』の歴史的研究」（1955.4起 野沢）と記されたノートが収蔵されており、それには昭和30年以降の礎石群発見に関する記録が詳細に綴られ、取り上げら

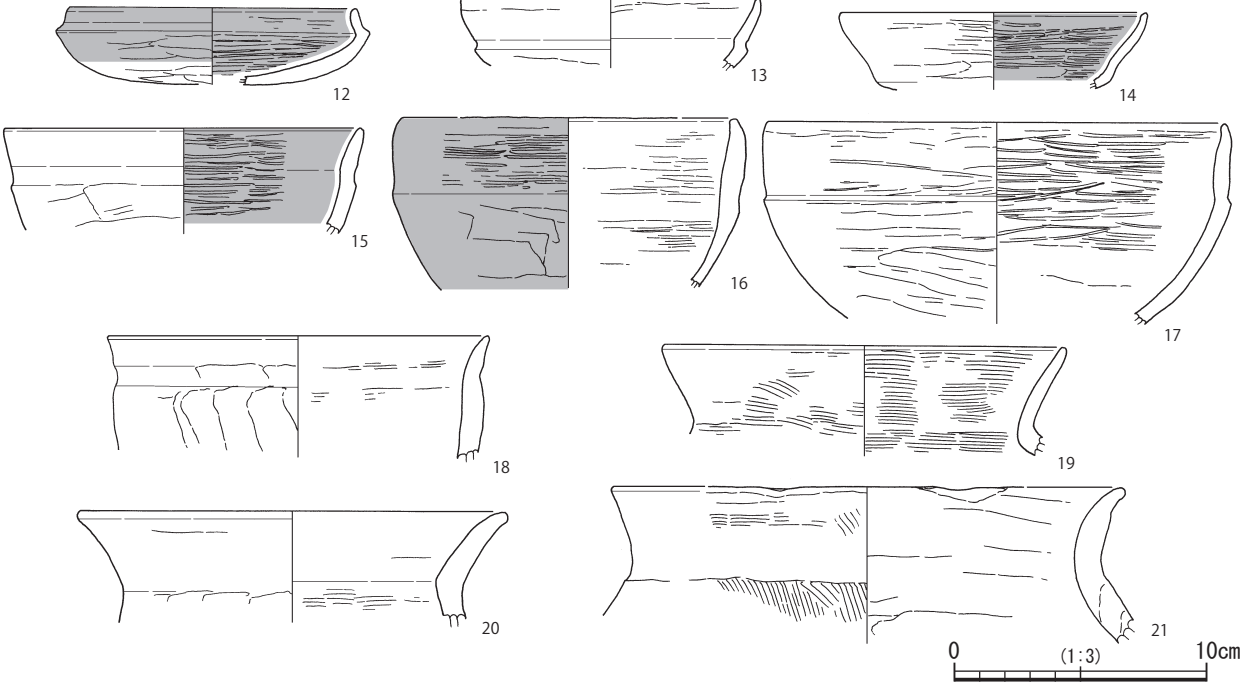
1号建物



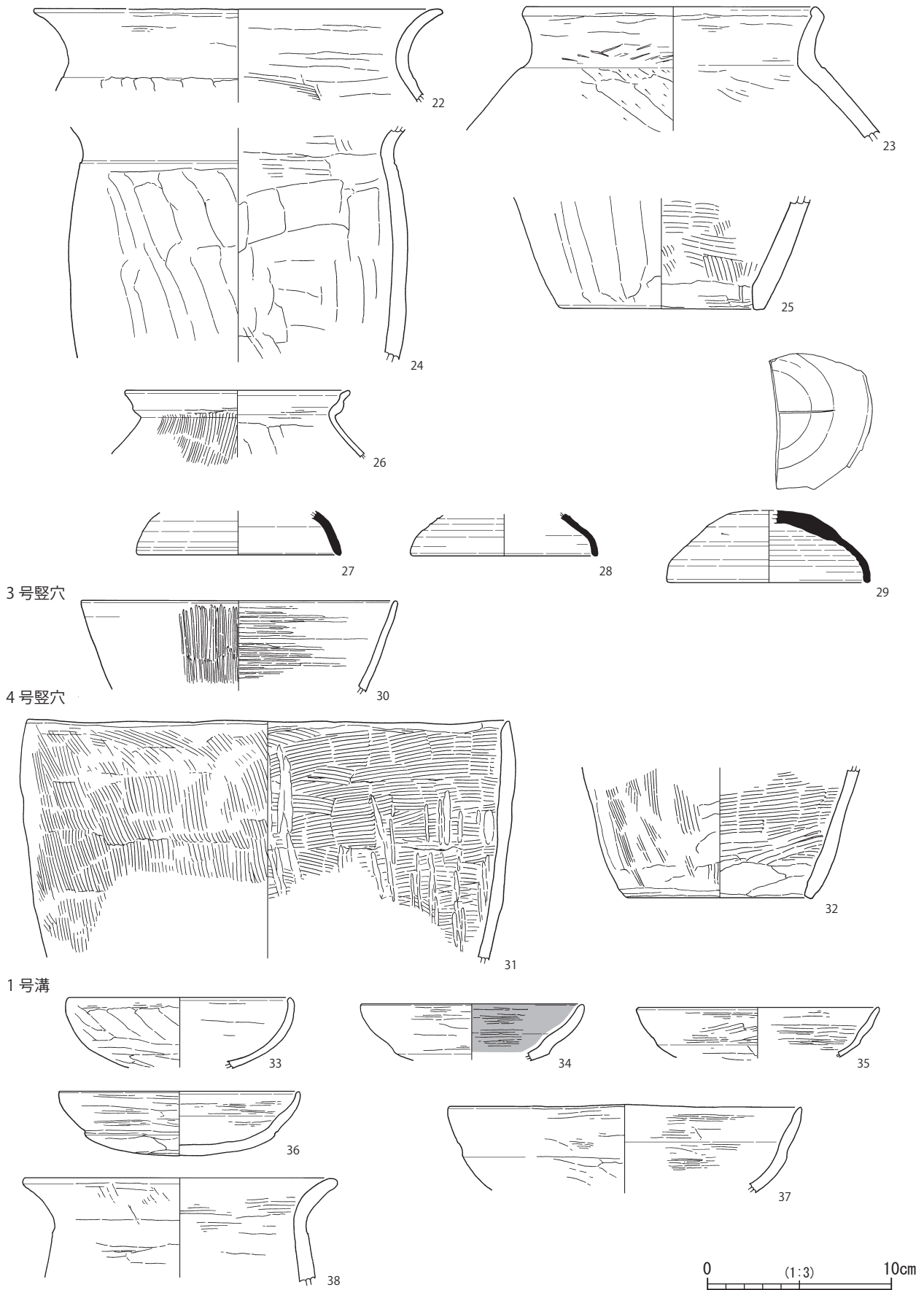
2号建物



2号竖穴



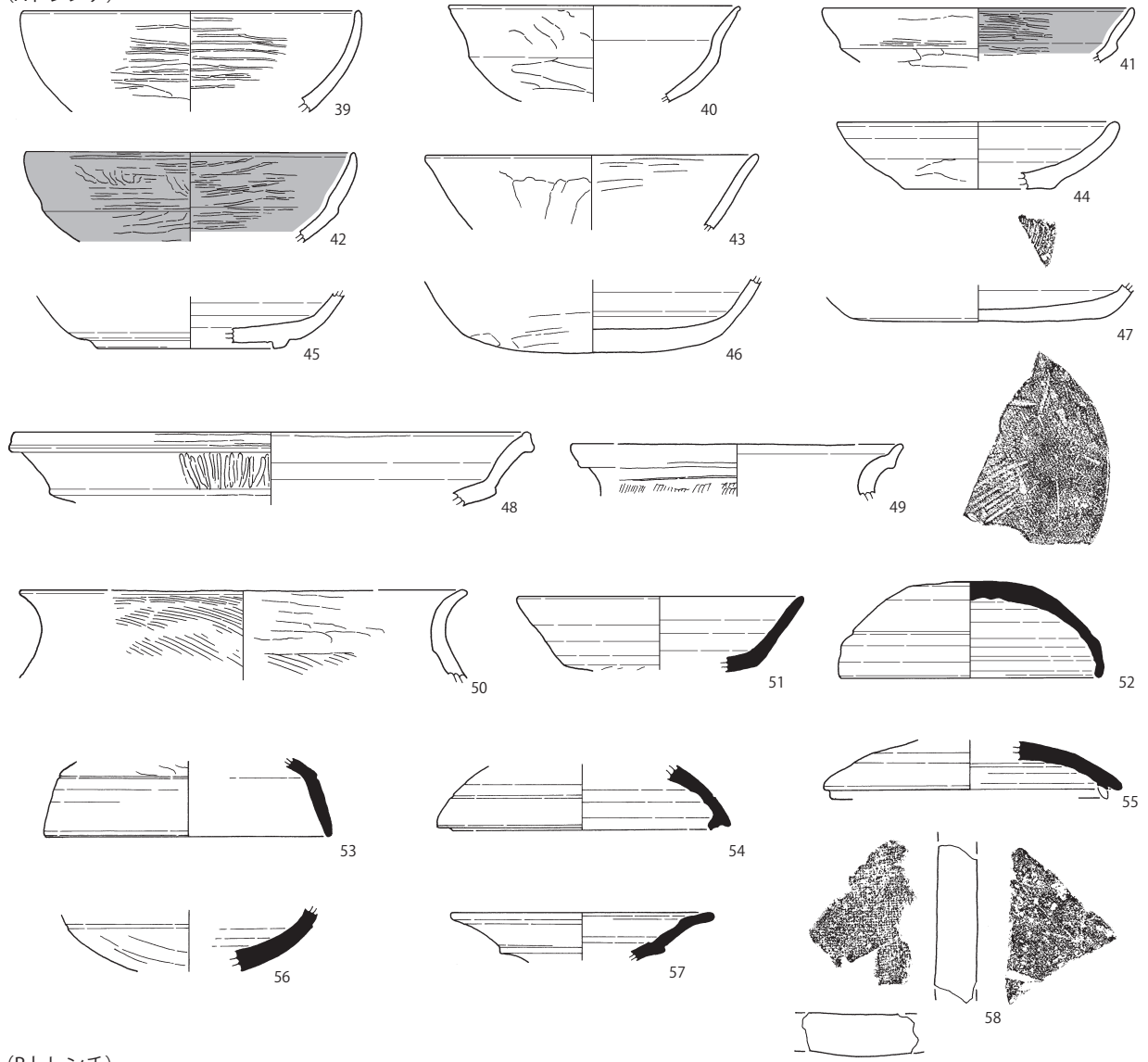
第11-1図 狐塚地点の遺物



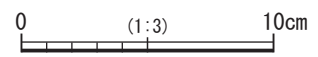
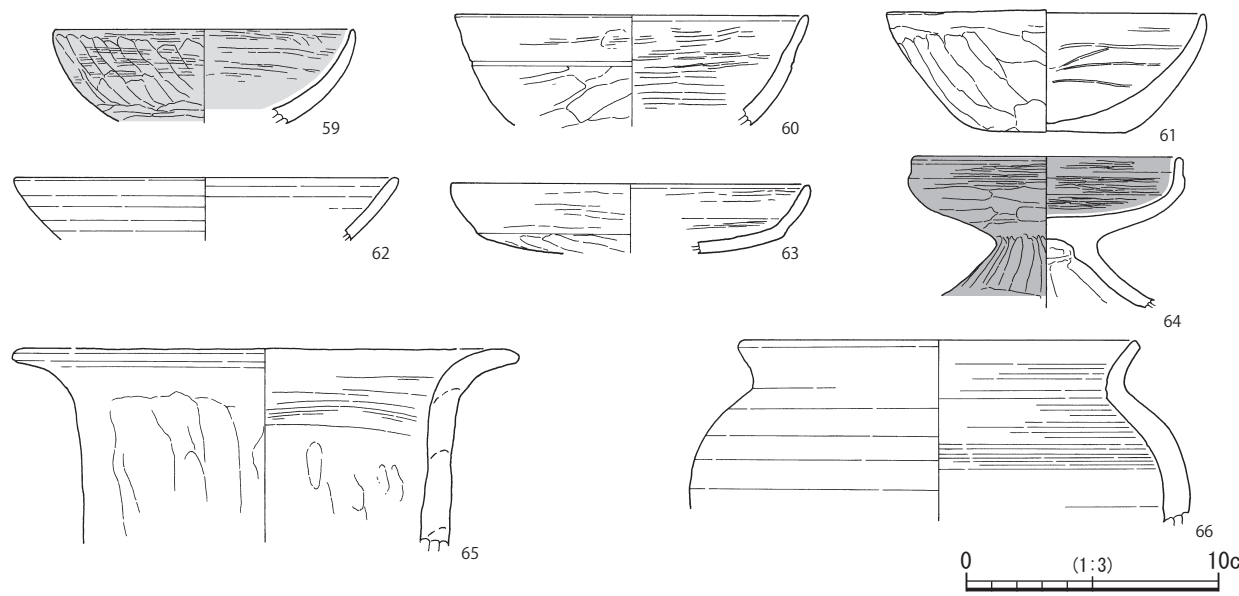
第11-2図 狐塚地点の遺物



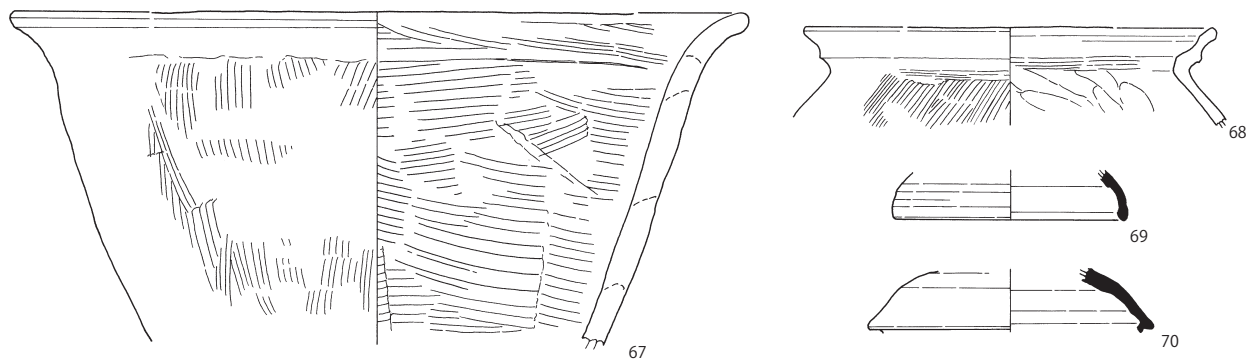
(Aトレンチ)



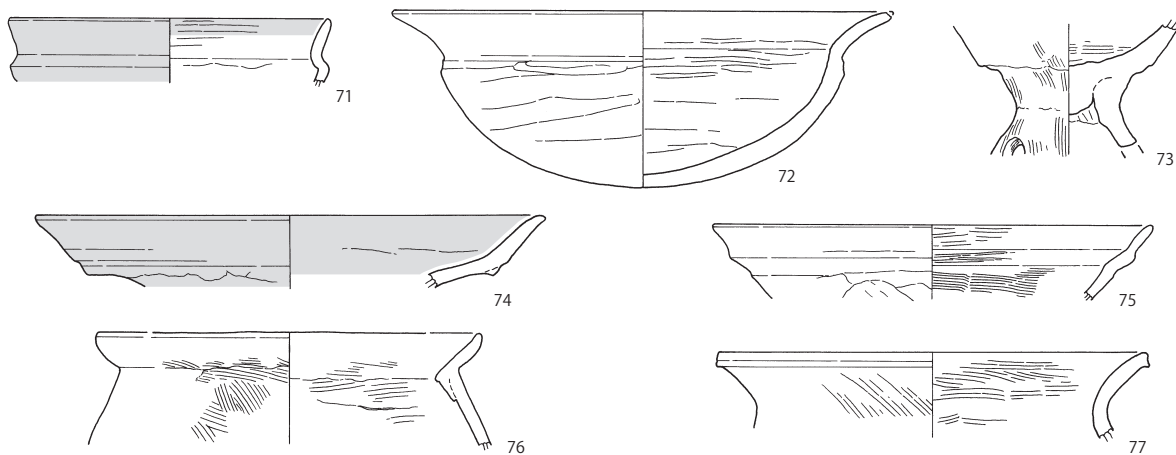
(Bトレンチ)



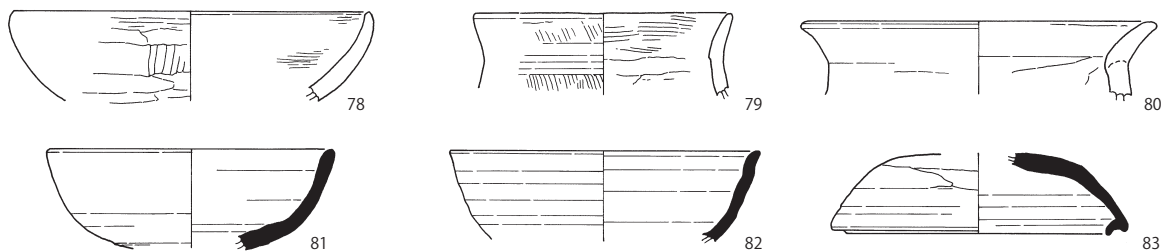
第11-3図 狐塚地点の遺物



(Cトレンチ)



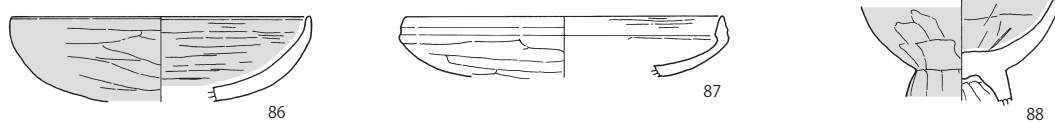
(Dトレンチ)



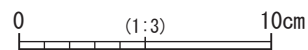
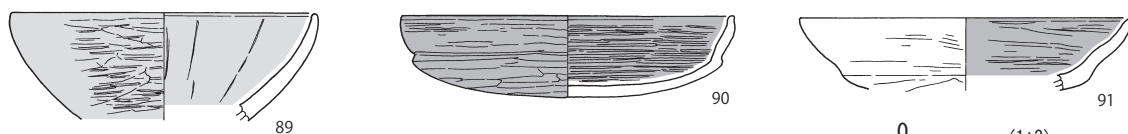
(Eトレンチ)



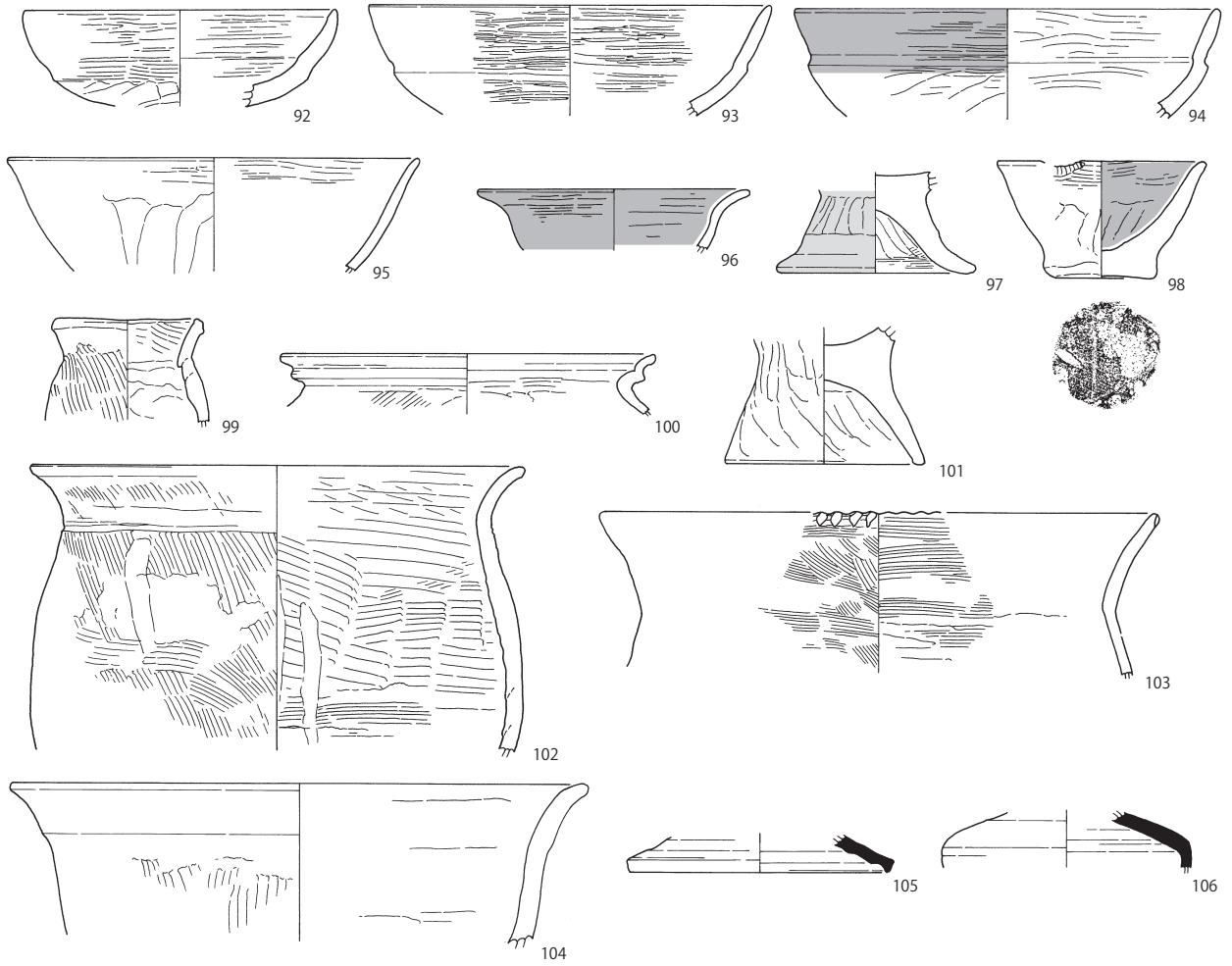
(Iトレンチ)



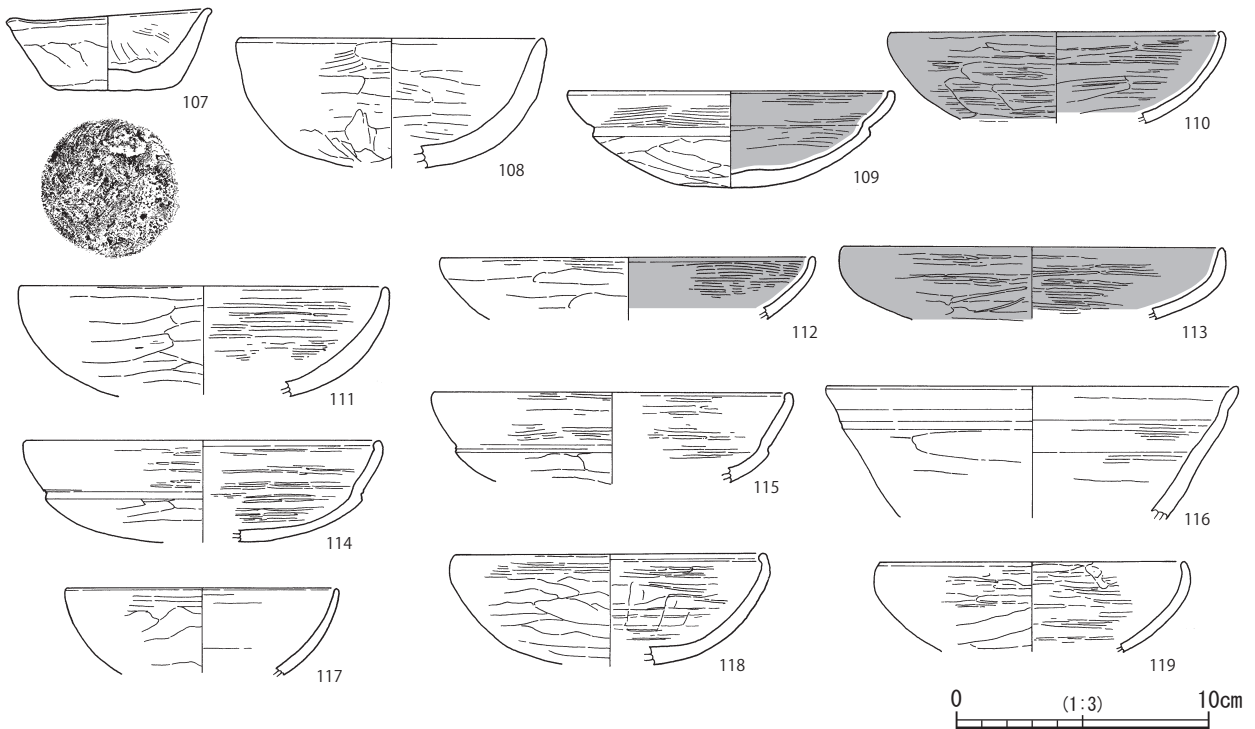
(中央拡張区)



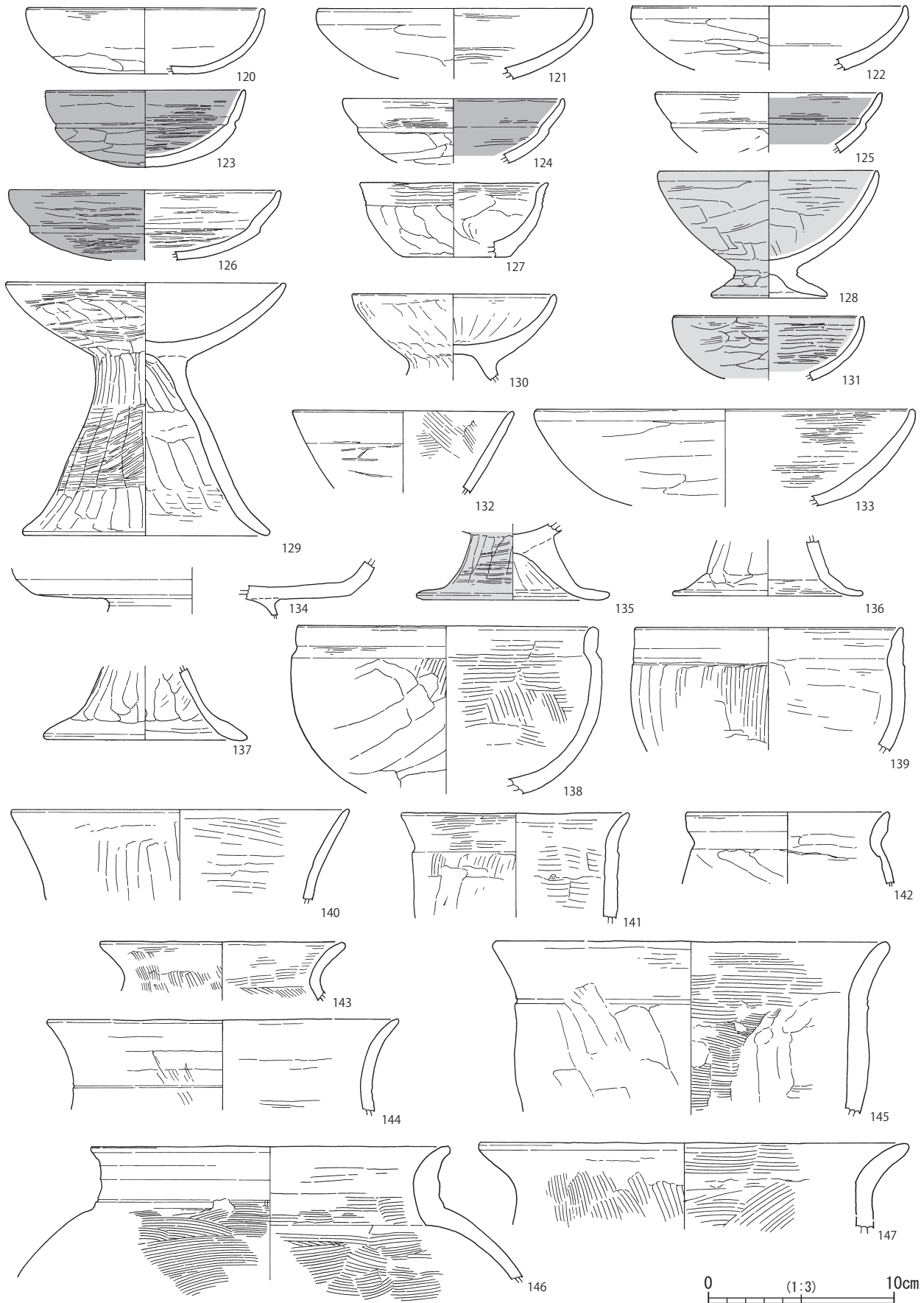
第11-4図 狐塚地点の遺物



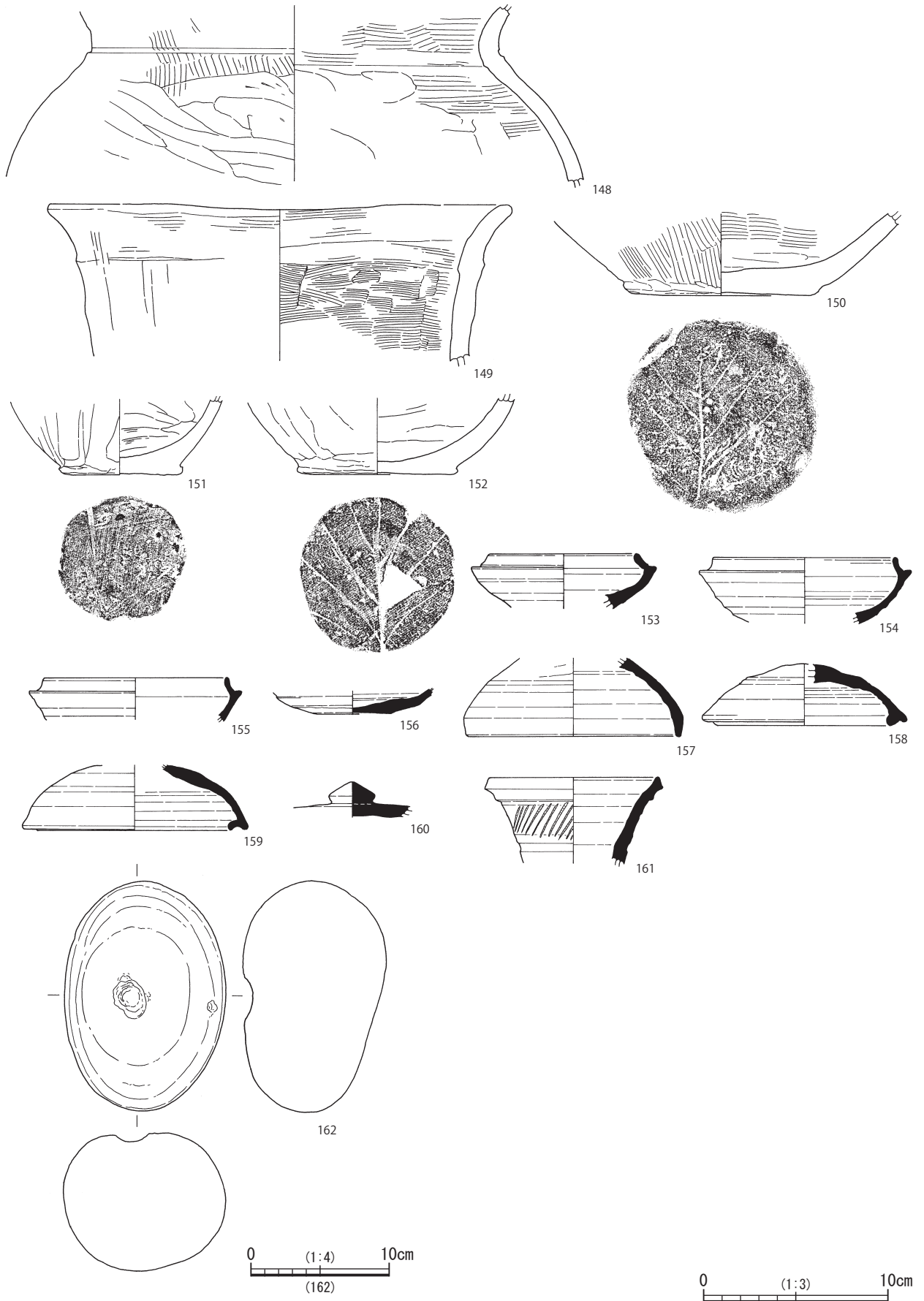
(土器集中区・土器捨場)



第11-5図 狐塚地点の遺物

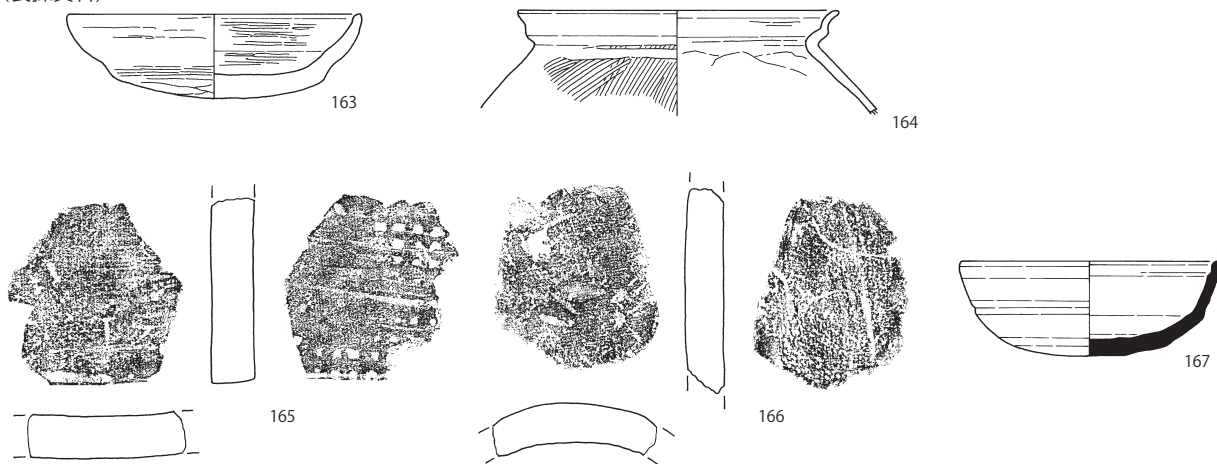


第11-6図 狐塚地点の遺物

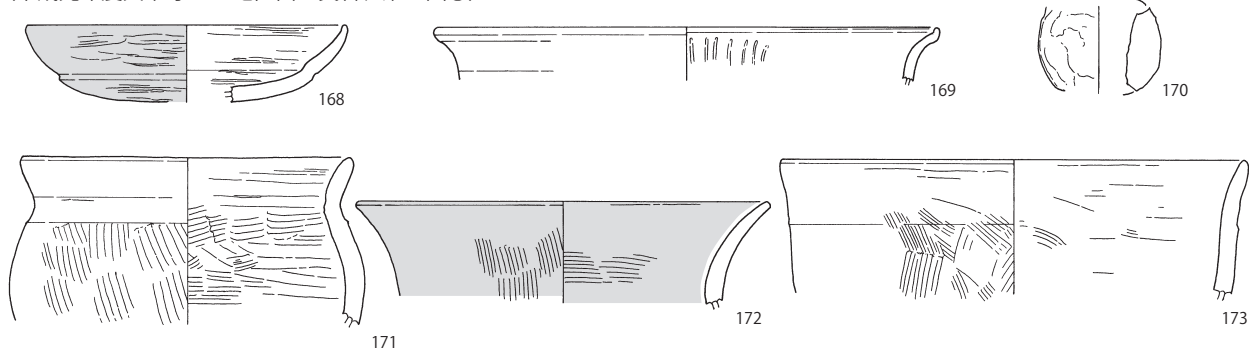


第11-7図 狐塚地点の遺物

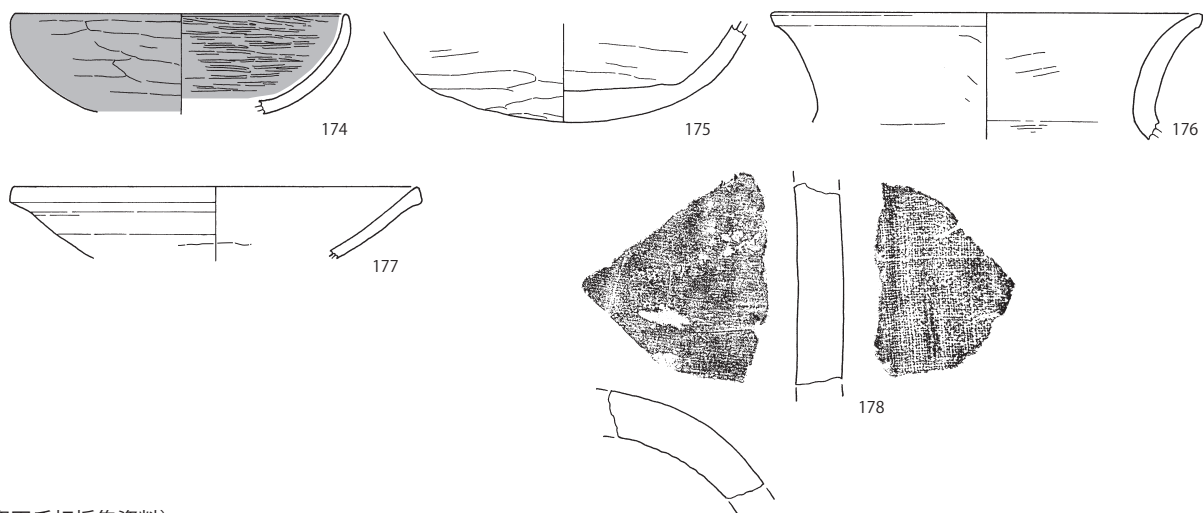
(表採資料)



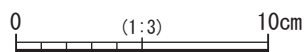
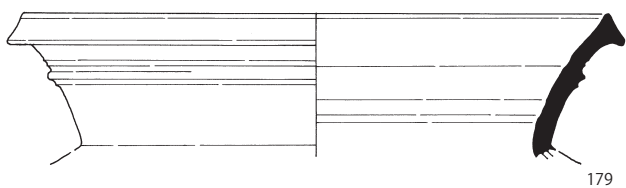
(平成元年度大中寺 156 地区出土資料、第 4 図④)



(平成元年度砂原町 A 区出土資料、第 4 図②③)



(窪田氏畑採集資料)



第11-8図 狐塚地点の遺物

れた礎石の写真や、周辺地区での礎石探査に関する調査記録が存在する。また何かの機会に必要な箇所を公表していきたいと考えている。

- 4) 2020年の室伏氏の見解によれば、庁舎的建築と小規模少数倉庫建物が約20mと比較的近い位置にあること、庁舎的建築の柱間間隔が御殿前遺跡、弥勒寺官衙遺跡、久留部官衙遺跡の建物と類似していることなどから、初期山梨評衡の端緒的遺構と見ることができると述べている(室伏 2020)。
- 5) 狐塚地点の2号建物は7世紀前半～末と考えられ、3号堅穴なども同じ向きを採用している。寺本廃寺における正確な軸線を示す調査データに関しては、建物配置や礎石ラインのデータがほとんど得られていないが、中門と南門の間にある参道耳石と推定される2列の平行した石列があり、主軸方向はほぼ北向きとなっている。7世紀第3四半期頃と推定される寺本廃寺創建を契機として、この一帯は正方位、北向きの軸線が採用されたと考えられ、その後の国府地区の条里形成に影響を与えたことが考えられる。

#### 引用参考文献

- 梶原義実 2009「国分寺研究における諸問題」『名古屋大学文学部研究論集 史学』55巻164号 39～54頁
- 春日居町 1988『春日居町誌』
- 春日居町教育委員会 1981『甲斐寺本廃寺Ⅰ』
- 春日居町教育委員会 1982『甲斐寺本廃寺Ⅱ』
- 春日居町教育委員会 1987『寺本廃寺と古代の春日居』
- 春日居町教育委員会 1988『寺本廃寺 第1・2・3次発掘調査報告書』
- 春日居町教育委員会 1989『国府遺跡Ⅰ 国府関連遺跡第1次発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1990『国府遺跡Ⅱ 国府関連遺跡第2次発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1991『国府遺跡Ⅲ 国府関連遺跡第3次発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1992『国府遺跡Ⅳ 国府関連遺跡第4次発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1993『国府遺跡Ⅴ 平成4年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1994『国府関連遺跡発掘調査報告書』
- 春日居町教育委員会 1996『国府遺跡Ⅵ 平成7年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1997『国府遺跡Ⅶ 平成8年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1998『国府遺跡Ⅷ 平成9年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 1999『国府遺跡Ⅸ 平成10年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 2000『国府遺跡Ⅹ 平成11年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 2001『国府遺跡Ⅺ 平成12年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 2002『国府遺跡Ⅻ 平成13年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 2003『国府遺跡Ⅼ 平成14年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 春日居町教育委員会 2004『国府遺跡Ⅽ 平成15年度国府関連遺跡発掘調査概報』
- 木下良 1967「国府研究の諸問題—甲斐国府をめぐって—」『文化史学』21
- 小林健二 2010「古墳時代における甲斐の地域社会—土器編年と墳墓の変遷—」『山梨県考古学協会誌』第19号 87～100頁
- 坂本大輔 2006「日本古代の地方行政と寺社—古代寺社からみる甲斐国府—」『山梨県考古学協会誌』第16号 66～74頁
- 坂本美夫 1987「甲斐国府—その環境と展望」『研究紀要』3 山梨県立考古博物館 47～67頁
- 坂本美夫 1996「甲斐国」『国府—畿内・七道の様相—』日本考古学協会三重県実行委員会 106～109頁
- 須藤賢・谷岡武雄 1951「甲斐条里の諸問題—甲府盆地の歴史地理的研究(第1報)」『地理学評論』24-4 日本地理学会
- 仁科義比古・大場磐雄 1938「甲斐国分寺」『国分寺の研究』上 618～642頁
- 新田真也 2006「『日本三代実録』からみた古代八代郡の動向—甲斐国八代郡擬大領無位伴直真貞—」『山梨県考古学協会誌』第16号 75～82頁
- 平野修 2013「甲斐国府跡」『東国の古代官衙』高志書院 77～82頁
- 笛吹市教育委員会 2005『国府遺跡 平成16年度国府遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』笛吹市文化財調査報告書 第3集
- 笛吹市教育委員会 2012『寺本廃寺跡 山梨県史跡寺本廃寺試掘調査報告書』笛吹市文化財調査報告書 第27集
- 三崎裕子 1991「奈良時代における禅院の機能と性格」『史論』44 42～62頁
- 三舟隆之 2013『日本古代の王権と寺院』名著刊行会
- 室伏徹 2008「大型建築からみた甲斐の古代官衙と交通網」『山梨県立博物館 調査・研究報告2 古代の交易と道研究報告書』59～70頁
- 室伏徹 2020「初期評家の一様相—山梨県笛吹市春日居町国府遺跡狐塚地点をめぐって—」『東国古代遺跡研究会 第10回研究大会 東国における古代遺跡の諸問題(2)』1～8頁
- 山梨県教育委員会 1995『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第106集

# （付編） 池ノ尻地点出土炭化物の樹種同定、種実同定、放射性年代測定

伊藤 茂<sup>※1</sup>・佐藤正教<sup>※2</sup>・廣田正史<sup>※3</sup>・山形秀樹<sup>※4</sup>・Zaur Lomtadze<sup>※5</sup>・黒沼保子<sup>※6</sup>・Sudarshan Bhandari<sup>※7</sup>

※1～7 パレオ・ラボAMS年代測定グループ

## はじめに

笛吹市に所在する国府遺跡池ノ尻地点より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。

## 1. 試料と方法

### 1-1 年代測定

試料は、Aトレンチ東から出土した炭化種実と炭化材が各1点の、合計2点である。いずれも奈良時代～平安時代の正倉跡から出土した試料である。

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

### 1-2 種実同定

炭化種実の試料は、Aトレンチ東から採取された炭化種実3点である。同定は、実体顕微鏡下で行った。年代測定には、このうちの1点（PLD-38181）を用いた。

### 1-3 樹種同定

試料は、Aトレンチ東から出土した炭化材1点（PLD-38182）である。最終形成年輪は残存しておらず、部位不明であった。

試料からカミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コー

ティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

## 2. 結果

### 2-1 年代測定

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

表1 測定試料および処理

| 測定番号      | 遺跡データ    | 試料データ   | 前処理   |
|-----------|----------|---|---|
| PLD-38181 | 調査区:Aトレ東 | 種類:炭化種実(イネ種子(穎果))<br>状態:dry   | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理:アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)               |
| PLD-38182 | 調査区:Aトレ東 | 種類:炭化材(ヒノキ)<br>試料の性状:最終形成年輪以外、部位不明<br>試料の形状:不明破片(残存径1.5cm、5年輪?)<br>状態:dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理:アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)<br>処理備考:鈹物混じり |



<sup>14</sup>C年代の暦年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された <sup>14</sup>C年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は <sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

## 2-2 種実同定

試料を同定した結果、炭化種実3点は全て草本植物のイネ炭化種子 (穎果) であった。以下に、記載を示し、図版に写真を掲載して同定の根拠とする。

・イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子 (穎果) イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。図版 2-1 は一端に胚が残存し、長さ 4.5mm、幅 3.0mm。図版 2-2 は胚が残存していない。長さ 4.6mm、幅 2.5mm。図版 2-3 も胚が残存しておらず、亀裂が入り、下部は欠損している。長さ 4.6mm、幅 2.9mm。

## 2-3 樹種同定

樹種同定の結果、炭化材は針葉樹のヒノキであった。試料の形状は不明で、残存径は 1.5cm、残存年輪数は5年輪ほどであった。以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.)

Endl. ヒノキ科 図版 1 1a-1c

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

## 3. 考察

Aトレンチ東から出土した試料について、暦年較正結果のうち2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して結果を整理する。

イネ炭化種子 (PLD-38181) は、688-753 cal AD (55.8%)、759-779 cal AD (15.9%)、790-870 cal AD (23.8%) であった。これは7世紀後半～9世紀後半で、飛鳥時代～平安時代前期の暦年代に相当する。

ヒノキの炭化材 (PLD-38182) は、573-645 cal AD (95.4%) であった。これは6世紀後半～7世紀中頃で、古墳時代後期～飛鳥時代の暦年代に相当する。

なお、種実試料の場合、測定結果は種実の結実年代を示す。したがって、今回のイネ炭化種子 (PLD-38181) は、種子の結実年代を示している。一方、木材の場合は最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回のヒノキの炭化材 (PLD-38182) は最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。

## 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の <sup>14</sup>C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafliadason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg,

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

| 測定番号      | δ <sup>13</sup> C (‰) | 暦年較正用年代 (yrBP ± 1σ) | <sup>14</sup> C年代 (yrBP ± 1σ) | <sup>14</sup> C年代を暦年代に較正した年代範囲                   |  |
|-----------|-----------------------|---------------------|-------------------------------|--|--|
|           |                       |                     |                               | 1σ 暦年代範囲   | 2σ 暦年代範囲   |
| PLD-38181 | -23.42 ± 0.28         | 1239 ± 19           | 1240 ± 20                     | 694-746 cal AD (54.1%)<br>763-776 cal AD (14.1%) | 688-753 cal AD (55.8%)<br>759-779 cal AD (15.9%)<br>790-870 cal AD (23.8%) |
| PLD-38182 | -23.09 ± 0.29         | 1452 ± 19           | 1450 ± 20                     | 598-638 cal AD (68.2%)                           | 573-645 cal AD (95.4%)   |

A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013)

IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869–1887.

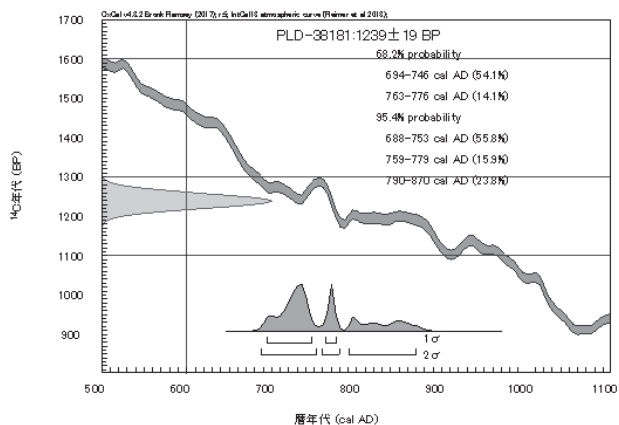


図1-1 暦年較正結果 (PLD-38181)

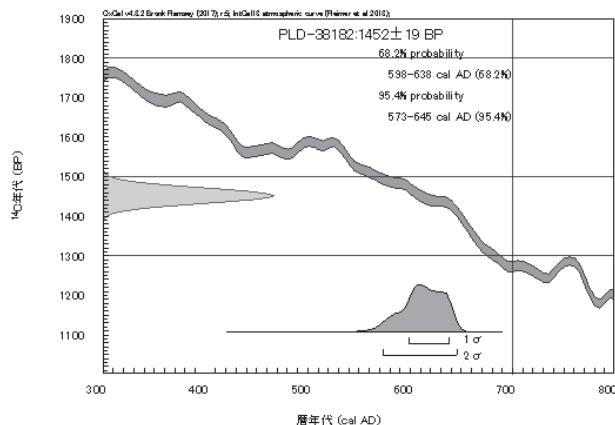
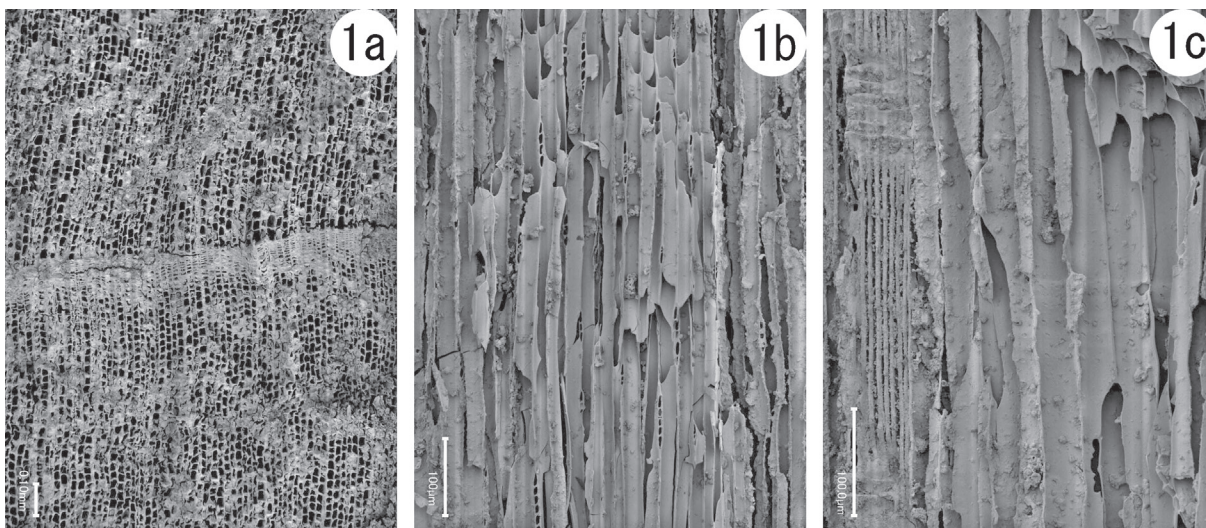


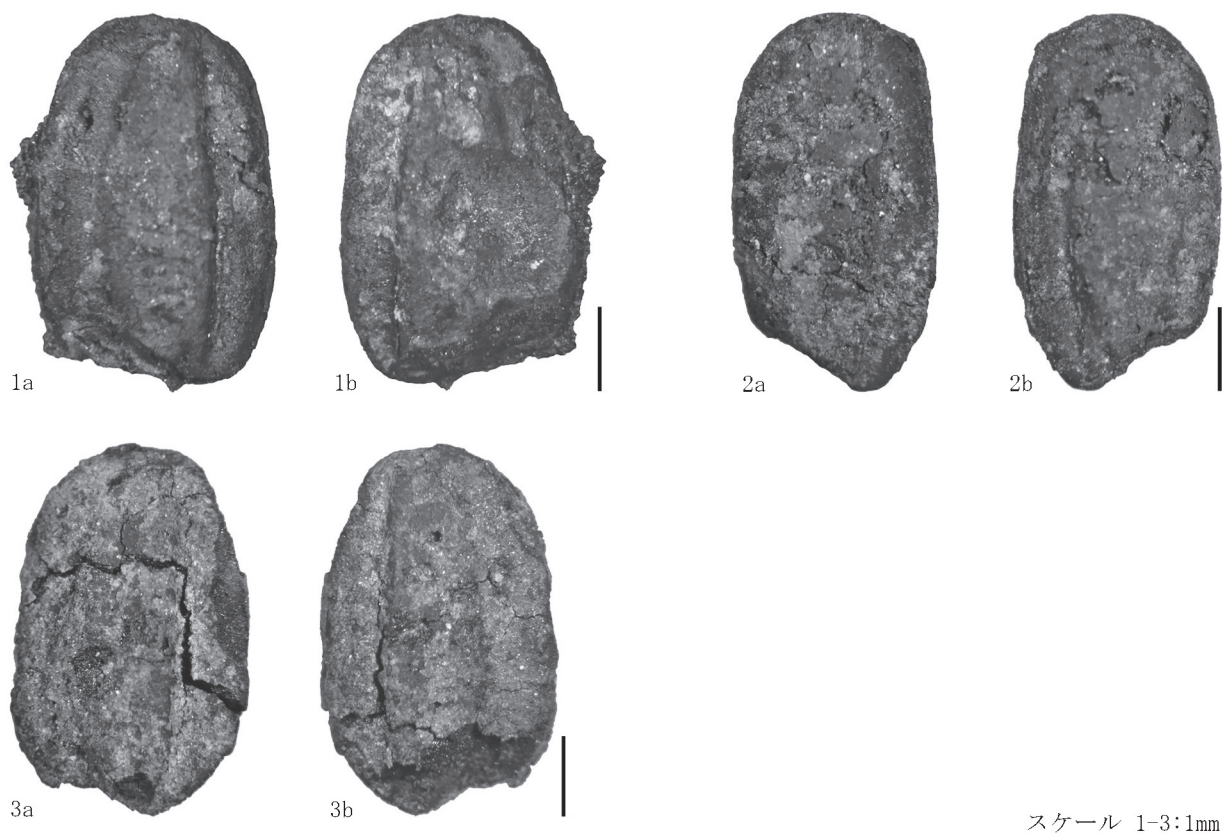
図1-2 同 (PLD-38182)



図版 1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. ヒノキ (PLD-38182)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



スケール 1-3:1mm

図版2 国府遺跡から出土した炭化種実

1. イネ炭化種子 (穎果) (Aトレ東、PLD-38181) 2・3. イネ炭化種子 (穎果) (Aトレ東)

